

令和6年度全国学力・学習状況調査

経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果（概要）

令和7年7月
文部科学省・国立教育政策研究所

目次

1. 令和6年度 経年変化分析調査・保護者に対する調査の概要	2
2. 調査結果の概要	3
3. 経年変化分析調査の結果	4
(1) 国全体のスコアの推移	4
(2) 社会経済的背景（SES）とスコア	9
(3) 調査の実施方法の違いによる解答への影響	10
4. 保護者に対する調査の結果	13
(1) 児童生徒の学校外での過ごし方	13
(2) 学校外での過ごし方に影響を与えるもの	17
(3) 子供の幸福感等	24
5. 文部科学省の主な取組一覧	25

調査概要

	経年変化分析調査	保護者に対する調査
調査目的	全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、28年、令和3年度に続き、4回目）	家庭状況と学力等の関係について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、29年、令和3年度に続き、4回目）
調査実施日	令和6年5月13日(月)～6月28日(金)の期間中、対象学校が実施可能な日時	左記期間に学校を通じて実施
調査対象	統計的な手法に基づき厳格な抽出を行った結果選ばれた国・公・私立の小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒	本体調査及び経年変化分析調査を実施した児童生徒の保護者
調査内容	国語、算数・数学、英語（中学校のみ） （調査時間：小学校40分、中学校45分(※)） ・問題冊子は、国語、算数・数学は13分冊、英語は2分冊で実施。 ・出題範囲は、原則、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項。 ・出題内容は、我が国の国語、算数・数学、英語の能力を中長期的に測定していくことができる内容としている。 ・各学校では、いずれか1教科を実施。 (※) 英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を45分で実施し、別途「話すこと」を5～10分程度で調査	保護者を対象に、児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等について質問調査を実施

◆ 標本学校数

	PBT実施校(※1)	CBT実施校(※2)	合計
小学校	国語・算数 各300校 (約3万人)	国語・算数 各300校 (約3万人)	1,200校 (約6万人)
中学校	国語・数学・英語 各250校 (約7万人)	国語・数学・英語 各250校 (約7万人)	1,500校 (約14万人)

(※1) PBT実施校：令和3年度調査までと同様の、冊子を用いた筆記形式で調査を実施する学校

(※2) CBT実施校：児童生徒が活用するICT端末を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で調査を実施する学校

経年変化分析調査の結果概要 ※令和6年度調査についてはPBT実施校の結果により比較

平成28年度、令和3年度、令和6年度（PBT実施校）の結果を比較したところ、各教科において以下のようなことが観察された。ただし、全国の本調査のスコア分布の状況に関する変化の有無は中長期的に継続して分析する必要があり、次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて引き続き分析していくこととする。

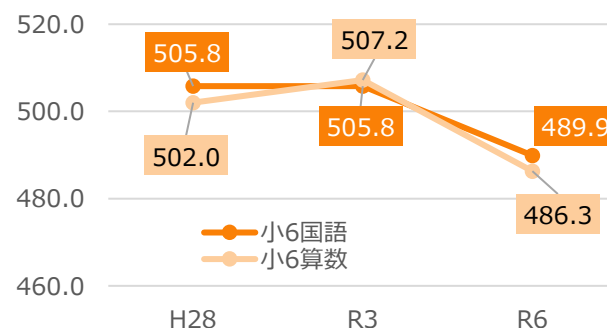
(1) 国全体のスコアの推移（基準年との比較）

- ・小学校国語・算数、中学校国語・英語については、本調査のスコアの低下が見られた。
- ・中学校数学については、本調査のスコアの変化は見られなかった。

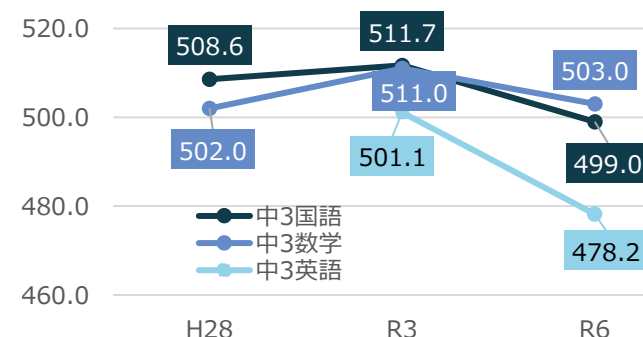
(2) 社会経済的背景（SES）とスコア

- ・SESが低い層の方がスコアの低下が大きい状況が確認された（中学校英語を除く）。

平均スコアの推移（小学校）



平均スコアの推移（中学校）



保護者に対する調査の結果概要

（注）過去の保護者に対する調査結果と厳密に比較する際には、抽出対象となる母集団の違いや回収率等を考慮した分析が必要。

- 保護者に対する調査から、児童生徒の学校外での過ごし方について、改めて以下のことが明らかになった。
 - ・学校外での勉強時間は前回調査から減少。学校外での勉強時間が長いほど、経年変化分析調査のスコアが高い傾向。
 - ・テレビゲームの使用時間は前回調査から増加。テレビゲームの使用時間が長いほど、経年変化分析調査のスコアが低い傾向。
 - ・スマートフォンの使用時間も前回調査から増加。スマートフォンの使用時間が一定程度を超えると、経年変化分析調査のスコアは低下。
- 子供の学校外での過ごし方に影響を与えている可能性があるものは何か分析したところ、以下のことが明らかになった。
 - ・子供と勉強の話をする保護者の割合は減少（そのような保護者の子供の方が勉強時間が長い。）。
 - ・学校生活が楽しければ、良い成績を取ることにこだわらない保護者の割合は増加（そのような保護者の子供の方が勉強時間が短い。）。
 - ・「ゲームの時間を限定している」保護者の子供の方が、テレビゲームの時間が短い。
 - ・「スマホルールを守るよう促す」保護者の子供の方が、SNSや動画視聴の時間が短い。
 - ・保護者のテレビゲーム、SNS・動画視聴の使用時間がそれぞれ長いと、子供の使用時間も長い。
- 授業が「よく分かる」と回答している児童生徒の方が勉強時間が長く、テレビゲーム、SNS・動画等の時間が短い。ただし、授業がよく分かる場合も分からない場合も、家で保護者と勉強の話をする児童生徒の勉強時間が長い。

3. 経年変化分析調査の結果 (1) 国全体のスコアの推移

① 小学校国語 (PBT)

R6経年

結果のポイント

小学校国語については、令和6年度のスコア*1分布（累積相対度数分布）は、基準である平成28年度のスコア分布の左側に移動していることが観察できる。国全体としてみれば、本調査のスコアの低下が見られた。次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて分析することが必要である。

*1:各問題の困難度等を推定した後、平均が500、標準偏差が100となるように変換して測定尺度を確定した上で、実際のスコアの分布をその尺度に基づいて測定したもの

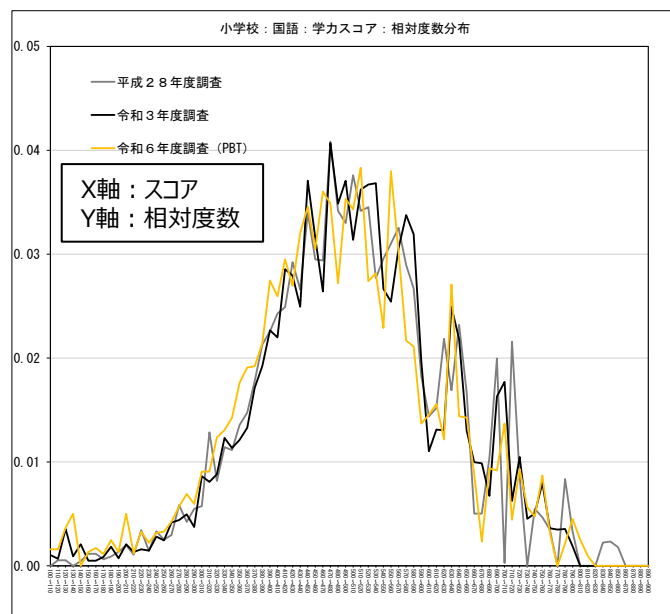
表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	505.8	505.8	489.9
児童数	11,122	16,321	15,767
標準偏差	123.7	120.8	126.8

<箱ひげ図の見方>

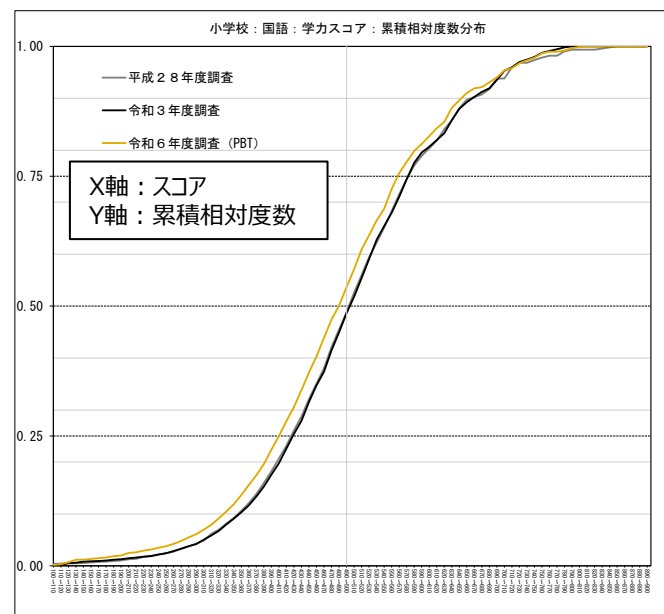
箱の上辺：75パーセンタイル*4（第3四分位数）
箱の下辺：25パーセンタイル*5（第1四分位数）
ひげの上端：「第3四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低いスコアの中での最大値
ひげの下端：「第1四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高いスコアの中での最小値
ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

図1 スコア分布（相対度数分布*2）



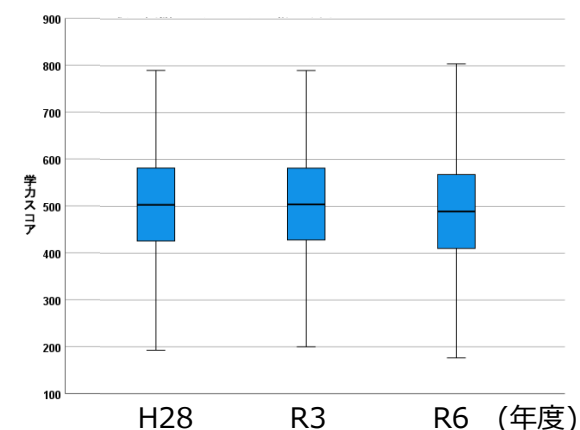
*2:全体を1としたときの各スコアに属する人数の割合

図2 スコア分布（累積相対度数分布*3）



*3:各スコアに属する人数の割合を加算して示したもの

図3 スコア分布（箱ひげ図）



75パーセンタイル*4	582.0	581.8	568.2
中央値	503.4	504.3	489.2
25パーセンタイル*5	426.1	428.4	410.3

*4 スコアを小さい方から並べ、全体の下位75%（上位25%）に位置する児童のスコア

*5 スコアを小さい方から並べ、全体の下位25%に位置する児童のスコア

結果のポイント

小学校算数については、令和6年度のスコア*1分布（累積相対度数分布）は、基準である平成28年度のスコア分布の左側に移動していることが観察できる。国全体としてみれば、本調査のスコアの低下が見られた。次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて分析することが必要である。

*1:各問題の困難度等を推定した後、平均が500、標準偏差が100となるように変換して測定尺度を確定した上で、実際のスコアの分布をその尺度に基づいて測定したもの

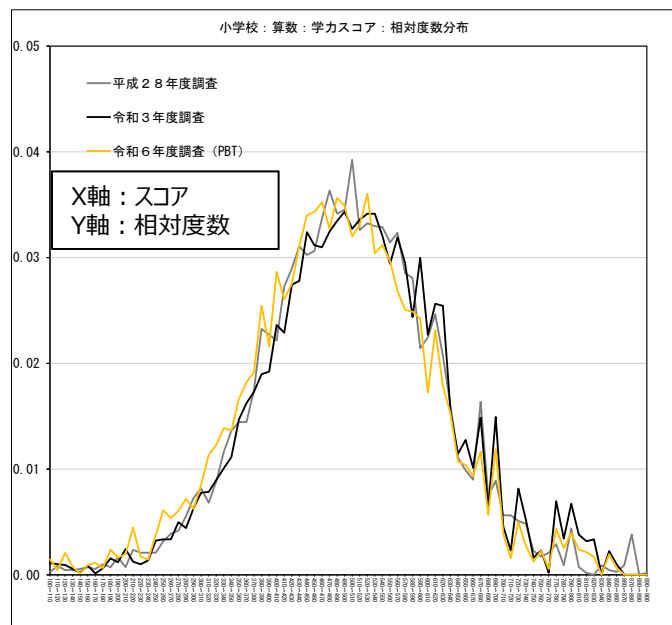
表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	502.0	507.2	486.3
児童数	11,009	16,078	16,006
標準偏差	122.3	126.0	126.8

<箱ひげ図の見方>

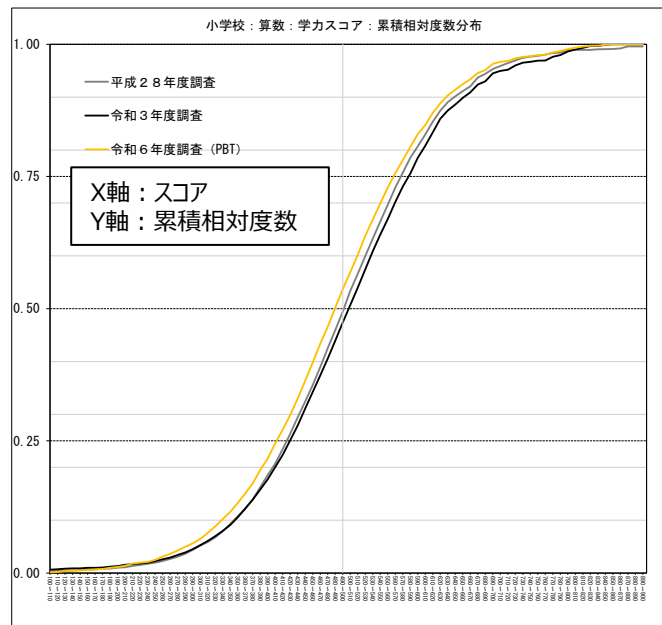
箱の上辺：75パーセンタイル*4（第3四分位数）
 箱の下辺：25パーセンタイル*5（第1四分位数）
 ひげの上端：「第3四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低いスコアの中での最大値
 ひげの下端：「第1四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高いスコアの中での最小値
 ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

図1 スコア分布（相対度数分布*2）



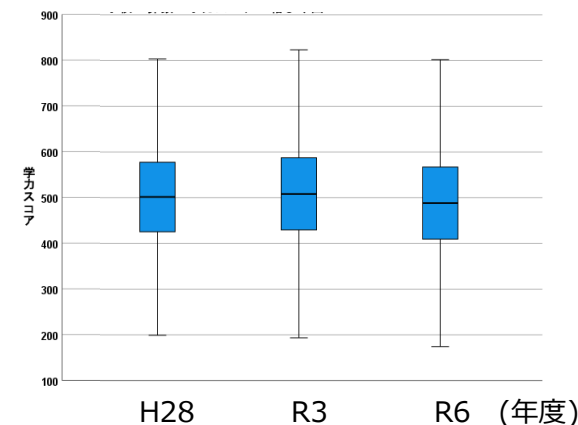
*2:全体を1としたときの各スコアに属する人数の割合

図2 スコア分布（累積相対度数分布*3）



*3:各スコアに属する人数の割合を加算して示したもの

図3 スコア分布（箱ひげ図）



75パーセンタイル*4	577.6	587.5	567.1
中央値	501.7	508.1	488.3
25パーセンタイル*5	425.7	429.6	409.6

*4 スコアを小さい方から並べ、全体の下位75%（上位25%）に位置する児童のスコア

*5 スコアを小さい方から並べ、全体の下位25%に位置する児童のスコア

結果のポイント

中学校国語については、令和6年度のスコア*1分布（累積相対度数分布）は、基準である平成28年度のスコア分布の左側に移動していることが観察できる。国全体としてみれば、本調査のスコアの低下が見られた。次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて分析することが必要である。

*1:各問題の困難度等を推定した後、平均が500、標準偏差が100となるように変換して測定尺度を確定した上で、実際のスコアの分布をその尺度に基づいて測定したもの

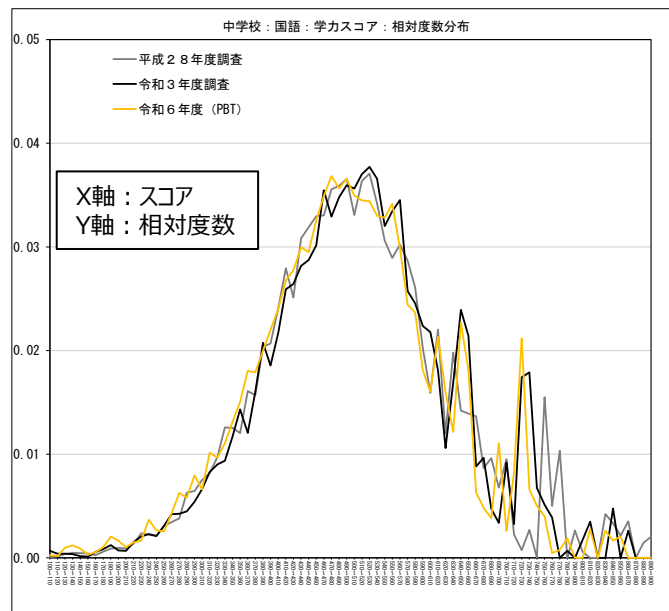
表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	508.6	511.7	499.0
生徒数	27,029	25,206	23,457
標準偏差	128.0	121.3	122.8

<箱ひげ図の見方>

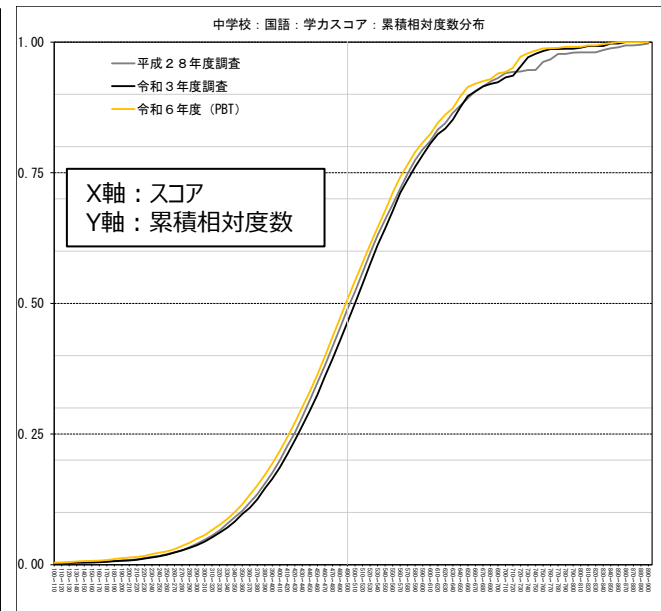
箱の上辺：75パーセンタイル*4（第3四分位数）
 箱の下辺：25パーセンタイル*5（第1四分位数）
 ひげの上端：「第3四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低いスコアの中での最大値
 ひげの下端：「第1四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高いスコアの中での最小値
 ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

図1 スコア分布（相対度数分布*2）



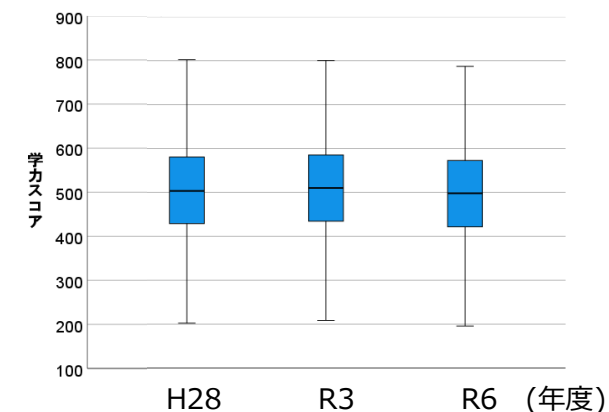
*2:全体を1としたときの各スコアに属する人数の割合

図2 スコア分布（累積相対度数分布*3）



*3:各スコアに属する人数の割合を加算して示したもの

図3 スコア分布（箱ひげ図）



75パーセンタイル*4	580.7	585.3	572.7
中央値	503.5	510.0	498.1
25パーセンタイル*5	429.0	434.6	421.8

*4 スコアを小さい方から並べ、全体の下位75%（上位25%）に位置する生徒のスコア

*5 スコアを小さい方から並べ、全体の下位25%に位置する生徒のスコア

結果のポイント

中学校数学については、令和6年度のスコア*1分布（累積相対度数分布）は、基準である平成28年度のスコア分布と比較して大きな変化は観察されない。国全体としてみれば、本調査のスコアの変化は見られなかった。次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて分析することが必要である。

*1:各問題の困難度等を推定した後、平均が500、標準偏差が100となるように変換して測定尺度を確定した上で、実際のスコアの分布をその尺度に基づいて測定したもの

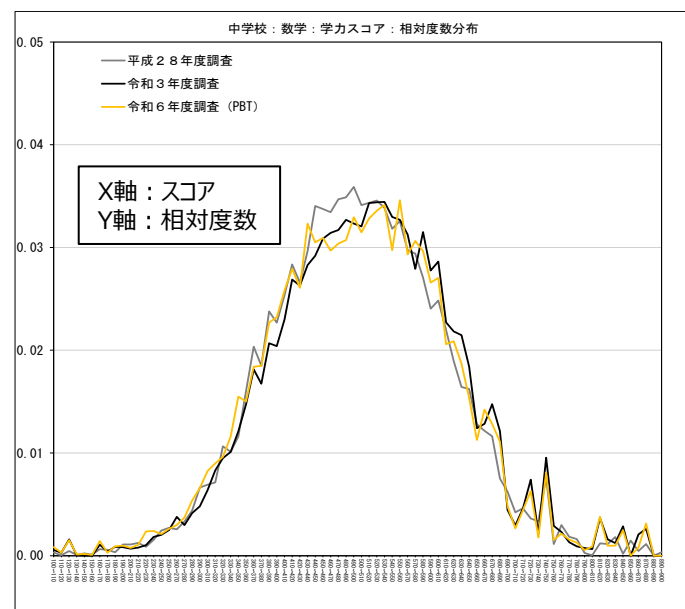
表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	502.0	511.0	503.0
生徒数	26,493	25,145	23,702
標準偏差	116.6	118.2	119.1

<箱ひげ図の見方>

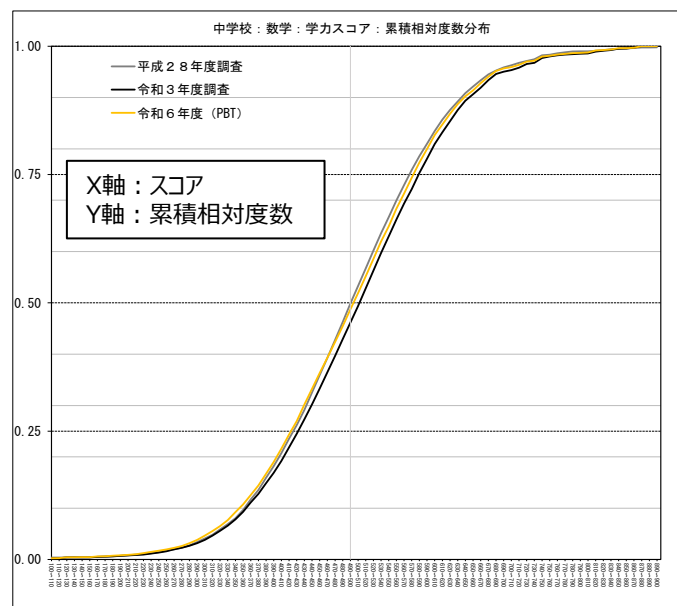
箱の上辺：75パーセンタイル*4（第3四分位数）
 箱の下辺：25パーセンタイル*5（第1四分位数）
 ひげの上端：「第3四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低いスコアの中での最大値
 ひげの下端：「第1四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高いスコアの中での最小値
 ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

図1 スコア分布（相対度数分布*2）



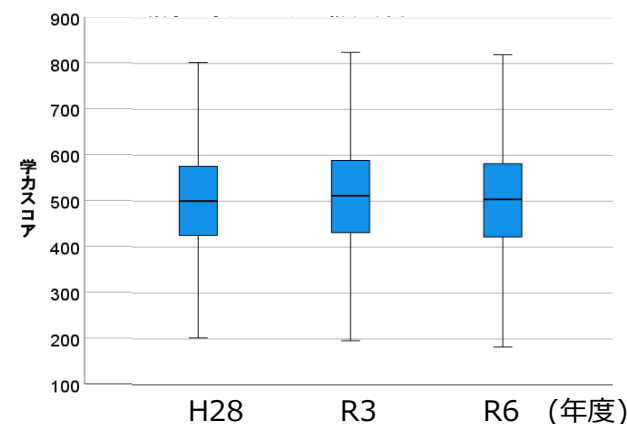
*2:全体を1としたときの各スコアに属する人数の割合

図2 スコア分布（累積相対度数分布*3）



*3:各スコアに属する人数の割合を加算して示したもの

図3 スコア分布（箱ひげ図）



75パーセンタイル*4	576.3	588.9	581.9
中央値	500.3	512.1	504.2
25パーセンタイル*5	425.6	431.8	422.2

*4 スコアを小さい方から並べ、全体の下位75%（上位25%）に位置する生徒のスコア

*5 スコアを小さい方から並べ、全体の下位25%に位置する生徒のスコア

結果のポイント

中学校英語については、令和6年度のスコア*1分布（累積相対度数分布）は、基準である令和3年度のスコア分布の左側に移動していることが観察できる。国全体としてみれば、本調査のスコアの低下が見られた。次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて分析することが必要である。

*1:各問題の困難度等を推定した後、平均が500、標準偏差が100となるように変換して測定尺度を確定した上で、実際のスコアの分布をその尺度に基づいて測定したもの

表1 スコアの標本統計量

実施年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	501.1	478.2
生徒数	22,946	23,103
標準偏差	110.2	105.2

<箱ひげ図の見方>

箱の上辺：75パーセンタイル*4（第3四分位数）

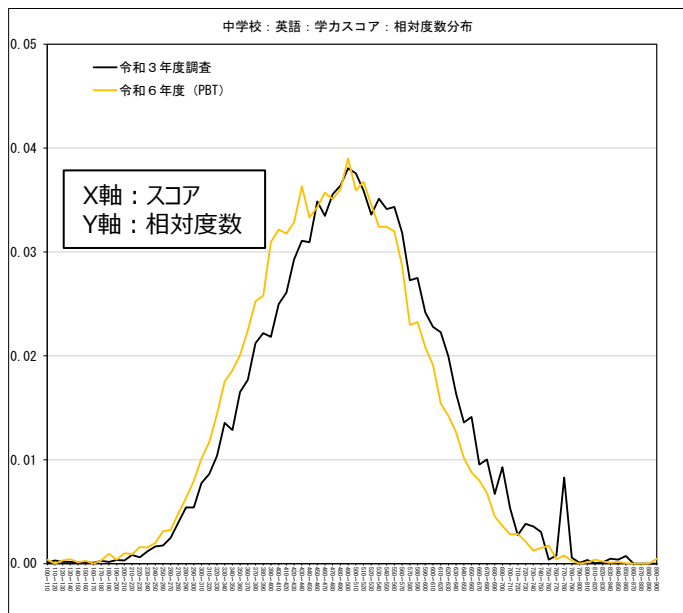
箱の下辺：25パーセンタイル*5（第1四分位数）

ひげの上端：「第3四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低いスコアの中での最大値

ひげの下端：「第1四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高いスコアの中での最小値

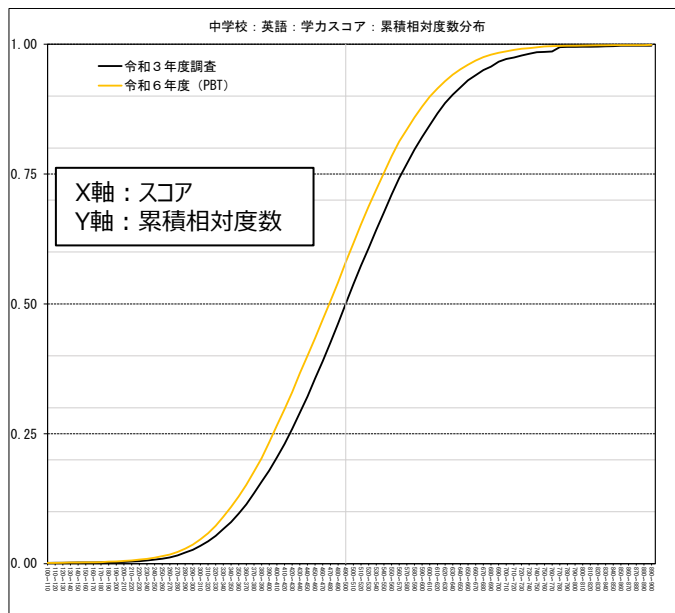
ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

図1 スコア分布（相対度数分布*2）



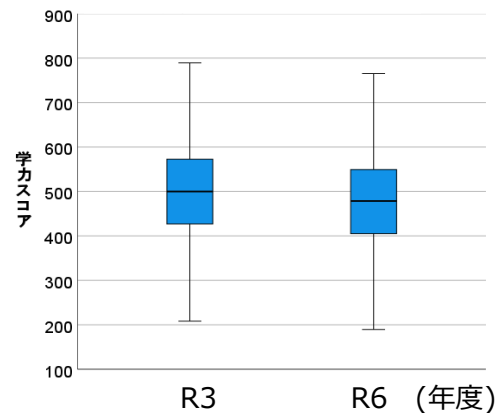
*2:全体を1としたときの各スコアに属する人数の割合

図2 スコア分布（累積相対度数分布*3）



*3:各スコアに属する人数の割合を加算して示したもの

図3 スコア分布（箱ひげ図）



75パーセンタイル*4	572.7	549.3
中央値	500.0	478.5
25パーセンタイル*5	426.9	405.2

*4 スコアを小さい方から並べ、全体の下位75%（上位25%）に位置する生徒のスコア

*5 スコアを小さい方から並べ、全体の下位25%に位置する生徒のスコア

ポイント

- ・家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、経年変化分析調査のスコアが低い傾向が見られる。
- ・令和3・6年度経年変化分析調査のスコアをSESが同じ層同士で比較したところ、特に小学校国語、中学校国語、中学校数学において、SESが低い層の方がスコアの低下が大きい状況が確認された。この背景については、慎重に分析する必要がある。

*全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（児童生徒〔23〕）をSESの代替指標として利用している。

「SES」と「経年変化分析調査のスコア」との関係

スコア（SESが同じ層同士での比較）

小国	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	463.9	511.7	535.1
R6	448.7	502.3	526.2
R6-R3	-15.1	-9.3	-8.8

中国	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	479.6	517.8	538.0
R6	466.8	512.5	535.5
R6-R3	-12.8	-5.3	-2.5

小算	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	462.9	512.5	541.4
R6	444.4	500.1	525.3
R6-R3	-18.5	-12.4	-16.1

中数	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	484.0	517.5	536.3
R6	474.0	515.3	536.8
R6-R3	-10.0	-2.2	0.5

中英	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	474.6	508.1	522.9
R6	455.0	487.9	506.5
R6-R3	-19.6	-20.1	-16.4

R6とR3の差については、差を算出した後に、小数第2位を四捨五入

3. 経年変化分析調査の結果 (3) 調査の実施方法の違いによる解答への影響

R6経年

本調査は、CBTへの移行に向けて過年度の結果との比較可能性等を検討するため、同一の内容の問題についてPBTとCBTで実施した。

今回の結果から、PBTとCBTの問題間において、調査の実施方法の違いによる解答への影響（モードエフェクト）が生じたと考えられる問題が見られた。モードエフェクトが生じたと考えられる問題の代表例と、その原因として推測されることは以下のとおり。得られた知見は今後のCBTの問題作成及び分析に生かしていく。

【例】小学校国語 問題13

出題の趣旨	正答率		無解答率		モードエフェクトが生じたと考えられる原因
	PBT	CBT	PBT	CBT	
文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って書き直すことができるかどうかをみる。	59.2%	29.7%	2.6%	4.3%	PBTでは問題文の空欄が25字程度であるが、CBTでは画面のレイアウトに一覧性を持たせたことにより空欄が6字程度となっている。 この問題の正答例は24字であることから、CBTの受検者は少ない文字数で解答しなければならないと判断した可能性が考えられるとともに、PBTの受検者には空欄の大きさが問題を解く際の手がかりになっていた可能性がある。実際にCBT受検者の方が過不足なく抜き出すことができている児童が多かった。

図1 小学校国語 問題13 (PBT)

6

リュックサックがとても重く、つかれて何度も立ち止まっていました。

最後まで登ることができました。

【林さんが書き直した文章】

先週、遠足で山登りに行きました。リュックサックがとても重く、つかれて何度も立ち止まっていました。最後まで登ることができました。

【南田さんからの助言】

線を引いた部分は、一文が長く、分かりにくいね。文をつなぐ言葉を使って、二つの文に分けて書いたらどうかな。そのときに、同じ内容を二度書かないように気をつけるといいよ。

図2 小学校国語 問題13 (CBT)

6

右は、林さんが遠足で山登りに行ったときのことを書いた【文章の下書き】です。林さんは、南田さんからの助言を受け、文章を書き直すことにしました。【南田さんからの助言】にしたがって、次の【林さんが書き直した文章】の□の中に入る適切な内容を入力しましょう。

【林さんが書き直した文章】

先週、遠足で山登りに行きました。リュックサックがとても重く、つかれて何度も立ち止まってしまいました。□、最後まで登ることができました。

登りきったあとの達成感はこれまでのつかれがふき飛ぶようでした。頂上で友人たちと食べたお弁当は、今までで一番おいしく感じられました。

<解答らん>

【文章の下書き】

先週、遠足で山登りに行きました。リュックサックがとても重く、つかれて何度も立ち止まってしまいました。先生や友人の応援の声にはげまされたので、リュックサックがとても重くてつかれたけれど、最後まで登ることができました。

登りきったあとの達成感はこれまでのつかれがふき飛ぶようでした。頂上で友人たちと食べたお弁当は、今までで一番おいしく感じられました。

【南田さんからの助言】

線を引いた部分は、一文が長く、分かりにくいね。文をつなぐ言葉を使って、二つの文に分けて書いたらどうかな。そのときに、同じ内容を二度書かないように気をつけるといいよ。

【例】 小学校算数

問題37

出題の趣旨	正答率		無解答率		モードエフェクトが生じたと考えられる原因
	PBT	CBT	PBT	CBT	
示された面積の求め方を基に、発展的な場面の面積の求め方を式に表すことができる。	47.2%	20.3%	4.9%	11.3%	○ <u>問題文と図の配置</u> PBTでは上から下へと問題を読み進めることができるが、CBTでは右の図を参照しながら読み進めることが必要であるため、上下だけでなく視線を左右に動かす必要が生じたことが影響した可能性がある。 ○ <u>画面のスクロール</u> 問題文の長さによりスクロールが生じるが、問題を一覧できないことが影響した可能性がある。 ○ <u>数式パレット</u> 分数や数式の入力に利用するが、数式パレットの操作に慣れていないことや問題に使用しない記号も含めて表示されていることが影響した可能性がある。 ○ <u>問題への書き込み</u> CBTは画面に文字や補助線等を直接書き込めないことが影響した可能性がある。また、手元のメモ用紙をうまく活用できなかった可能性がある。

図1 小学校算数 問題37 (PBT)

1

1 辺 6 cm の正方形の色紙が 5 枚あります。これを下の図のようにつなげてできる形の面積を求めます。重なっている部分はすべて正方形になっています。

よしこ

(1) よしこさんは、下のように考えて、2 枚つなげたときの面積を求めました。

よしこさんの考え方

1 辺 6 cm の正方形が 1 つと、
1 辺 3 cm の正方形が 3 つがあると
考えて、それらをあわせれば面積
を求めることができます。

式 $6 \times 6 + 3 \times 3 \times 3 = 63$ 答え 63 cm²

次に、5 枚つなげたときの面積を求めます。

よしこさんの考え方をもとにすると、5 枚つなげたときの面積を求める式はどうなりますか。

下の にあてはまる式を書きましょう。式は解答用紙に書きましょう。

式 $6 \times 6 + \text{ } = 144$ 答え 144 cm²

図2 小学校算数 問題37 (CBT)

1 辺 6 cm の正方形の紙が 5 枚あります。これを **タブ 1** の **図 1** のようにつなげてできる形の面積を求めます。重なっている部分はすべて正方形になっています。

（1）よしこさんは、**タブ 2** の **図 2** のように考えて、2 枚つけたときの面積を求めました。

次に、**タブ 2** の **図 3** のように 5 枚つけたときの面積を求めます。

よしこさんの考え方をもとにすると、5 枚つけたときの面積を求める式はどうなりますか。

下の にあてはまる式を入力しましょう。

式 $6 \times 6 + \text{A} = 144$

答え 144 cm^2

図 1

図 2

よしこさんの考え方

1 辺 6 cm の正方形が 1 つと、
1 辺 3 cm の正方形が 3 つあると
考えて、それらをあわせれば面積
を求めることができます。

式 $6 \times 6 + 3 \times 3 \times 3 = 63$ 答え 63 cm^2

図 3

< の解答らん >

（分数、数式で入力する場合は、数式/レイトを使って答えましょう。数字は半角で入力しましょう。）

$\frac{x}{y}$
()
:
<
>
=
+
-
 $\times$
 $\div$

【例】 中学校国語 問題36

出題の趣旨	正答率 (楷書として 解答した割合)		行書として 解答した割合		モードエフェクトが生じたと考えられる原因
	PBT	CBT	PBT	CBT	
行書の基礎的な書き方を理解しているかどうかをみる。	72.3%	54.1%	12.3%	23.5%	CBTでは行書で解答している生徒が比較的多いことから、「楷書」という文字やフリガナに着目できずに指示を読み飛ばした可能性が考えられる。 また、CBTは画面に書き込みができないことから、画数を目で追って数えるなどして誤った可能性も考えられる。

図1 中学校国語
問題36 (PBT)

5



行書には、点画が連続したり省略されたりするという特徴があります。次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を答えなさい。

楷書で書いたときの総画数を

図2 中学校国語 問題36 (CBT)

行書には、点画が連続したり省略されたりするという特徴があります。次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を答えなさい。



<解答欄>

画

4. 保護者に対する調査の結果 (1) 児童生徒の学校外での過ごし方

R6保護者

(注1) 過去の保護者に対する調査結果と厳密に比較する際には、抽出対象となる母集団の違いや回収率等を考慮した分析が必要。
(注2) 掲載している割合を示すグラフは誤記入、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。

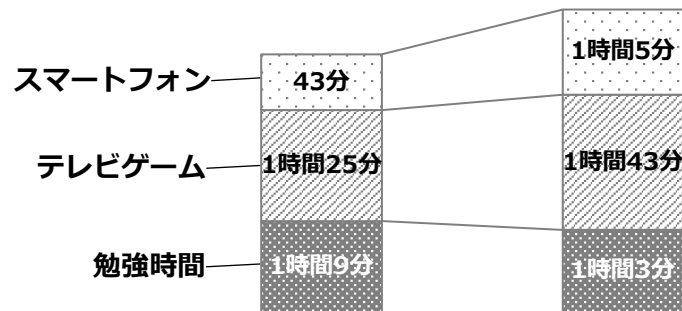
ポイント

- 保護者に対する調査から、児童生徒の学校外での過ごし方について、改めて以下のことが明らかになった。
 - ・学校外での勉強時間は前回調査から減少。学校外での勉強時間が長いほど、経年変化分析調査のスコアが高い傾向。
 - ・テレビゲームの使用時間は前回調査から増加。テレビゲームの使用時間が長いほど、経年変化分析調査のスコアが低い傾向。
 - ・スマートフォンの使用時間も前回調査から増加。スマートフォンの使用時間が一定程度を超えると経年変化分析調査のスコアは低下。
- 家庭の社会経済的背景（SES：Socio-Economic Status）*が低いグループほど、勉強時間が短く、テレビゲーム・スマートフォンの使用時間が長い。

保護者に対する調査に基づく、子供の学校外での平均的な過ごし方（平日）

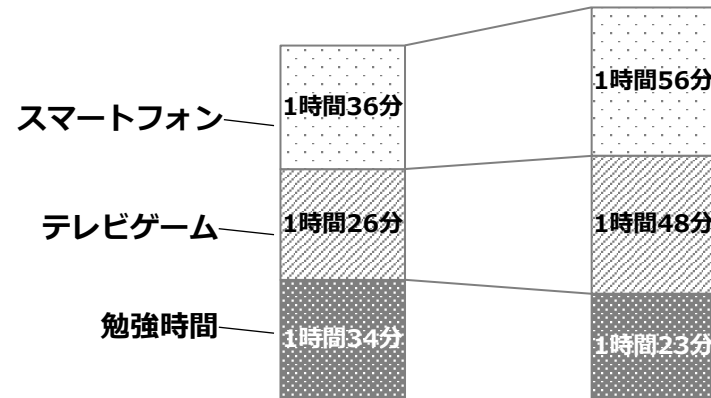
小学校6年生

令和3年度 → 令和6年度

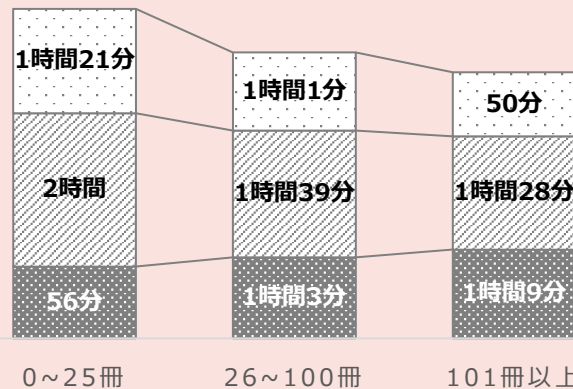


中学校3年生

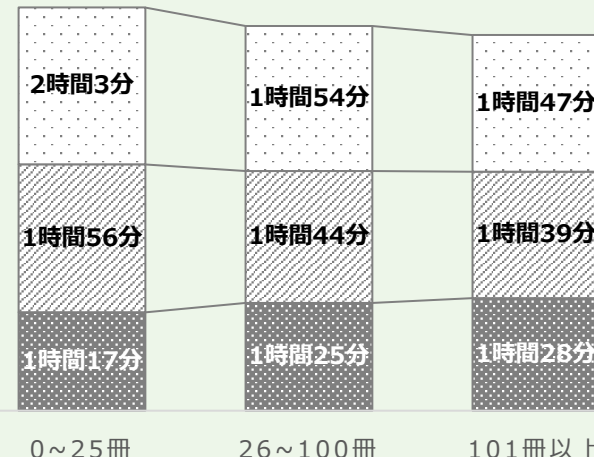
令和3年度 → 令和6年度



社会経済的背景（SES）別の過ごし方（R6）



社会経済的背景（SES）別の過ごし方（R6）



(注) 表・グラフの時間は令和3・6年度「保護者に対する調査」の以下の質問の各選択肢の中央値を基に、平均値を算出したもの。

- ・お子さんは、学校の授業時間以外に、普段（学校のある日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、ICT機器を活用してインターネットのコンテンツから学ぶ時間も含む）。
- ・お子さんは、普段（学校のある日）、1日のうち何時間程度、テレビゲーム（コンピュータゲーム・携帯型ゲーム・スマートフォンなどのゲームを含む）をしていますか。
- ・お子さんは、普段（学校のある日）、1日のうち何時間程度、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。

① 平日の勉強時間

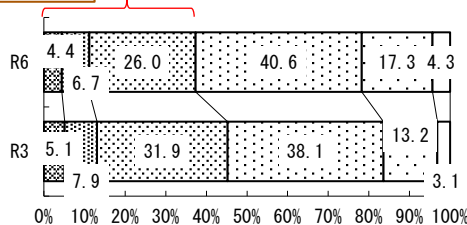
保護者
2(1)

お子さんは、学校の授業時間以外に、普段（学校のある日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、ICT機器を活用してインターネットのコンテンツから学ぶ時間も含む）。

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

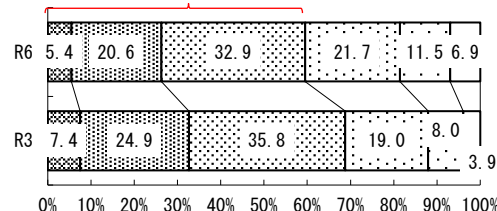
小学校

37.7



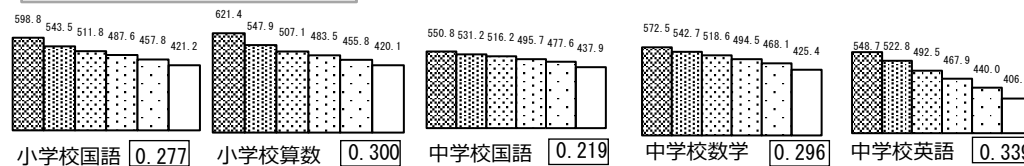
中学校

58.9



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均スコア



<参考> 児童生徒への質問結果*

*令和6年度本体調査の児童生徒質問調査結果より

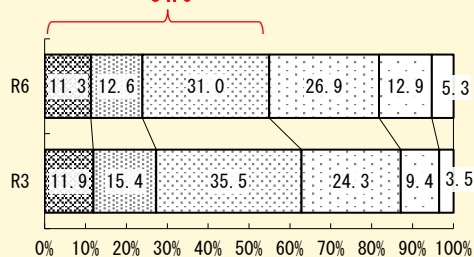
児童〔21〕
生徒〔21〕

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

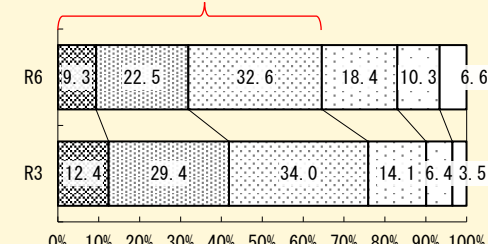
小学校

54.9



中学校

64.4



② 休日の勉強時間

※ 内の数字は相関係数

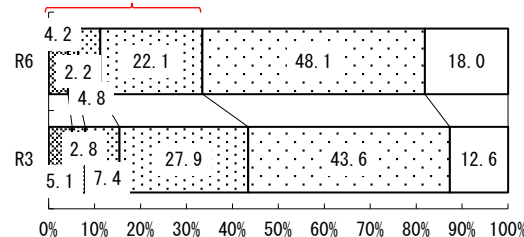
保護者
2(2)

お子さんは、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、ICT機器を活用してインターネットのコンテンツから学ぶ時間も含む）。

4時間以上 3時間以上、4時間より少ない 2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない 1時間より少ない 全くしない

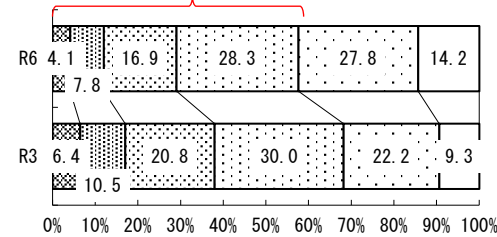
小学校

33.3



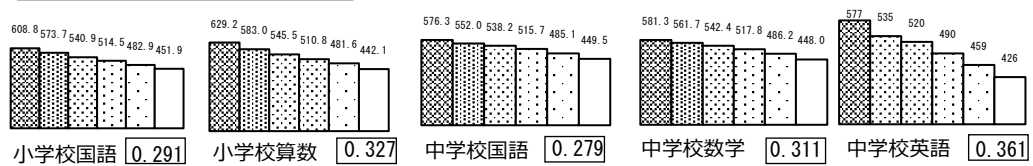
中学校

57.1



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均スコア



<参考> 児童生徒への質問結果*

*令和6年度本体調査の児童生徒質問調査結果より

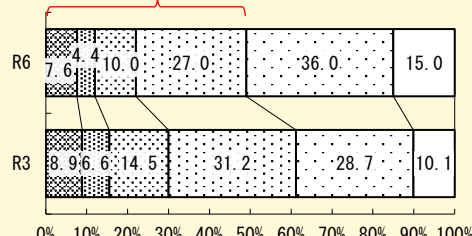
児童〔22〕
生徒〔22〕

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

4時間以上 3時間以上、4時間より少ない 2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない 1時間より少ない 全くしない

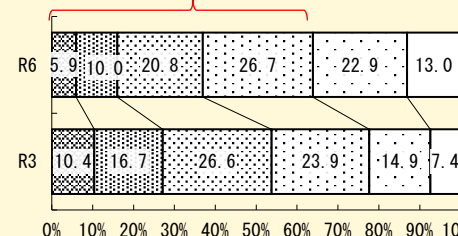
小学校

49.0



中学校

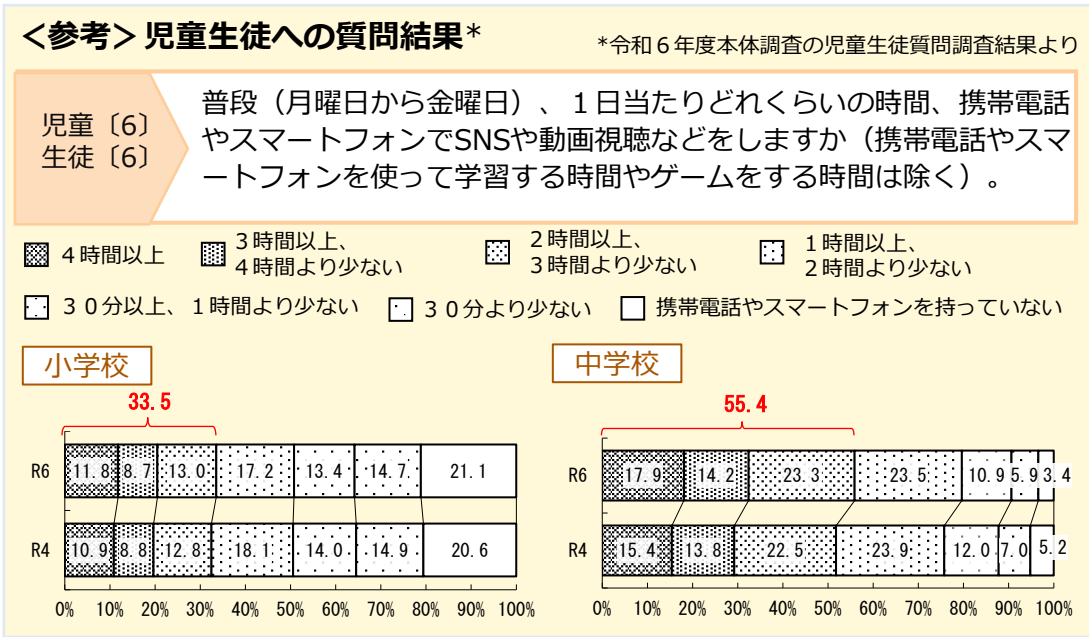
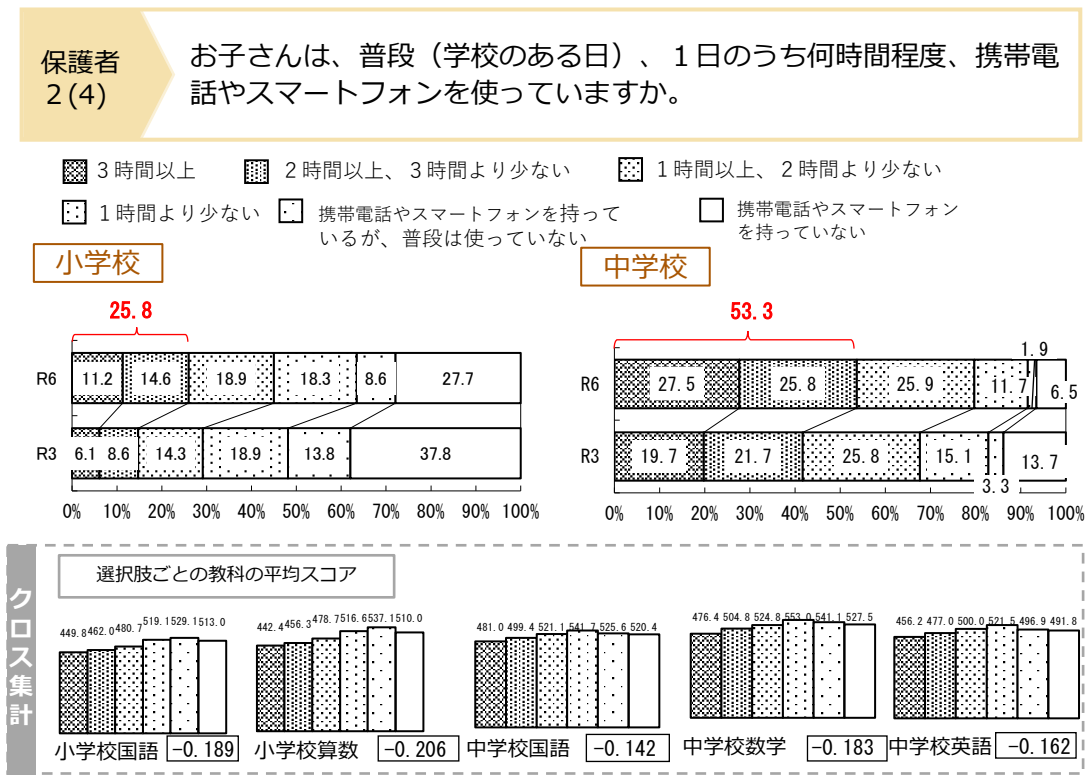
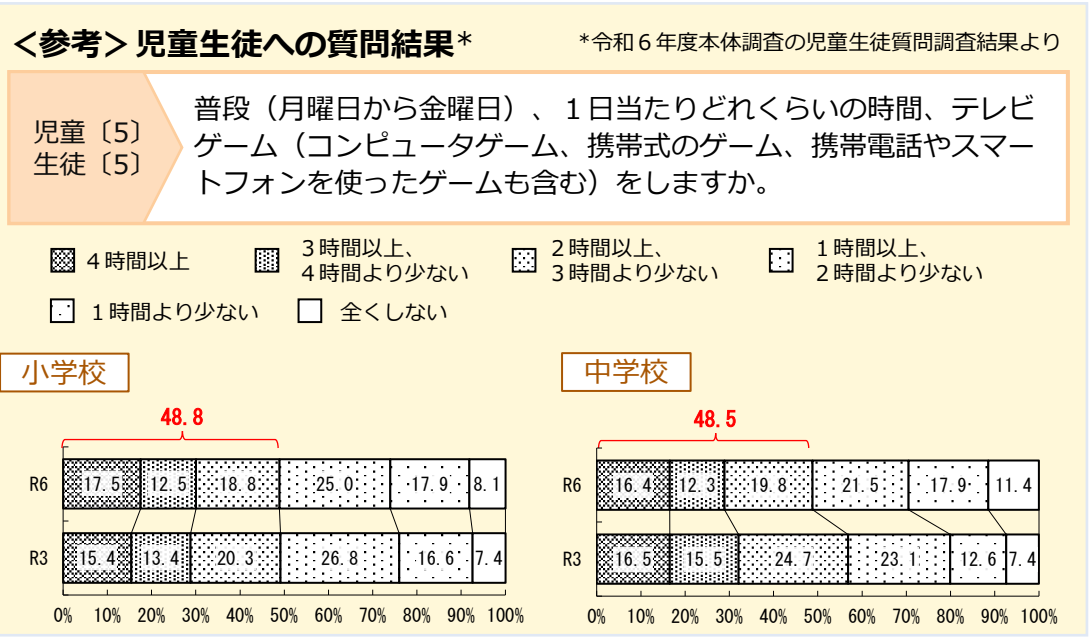
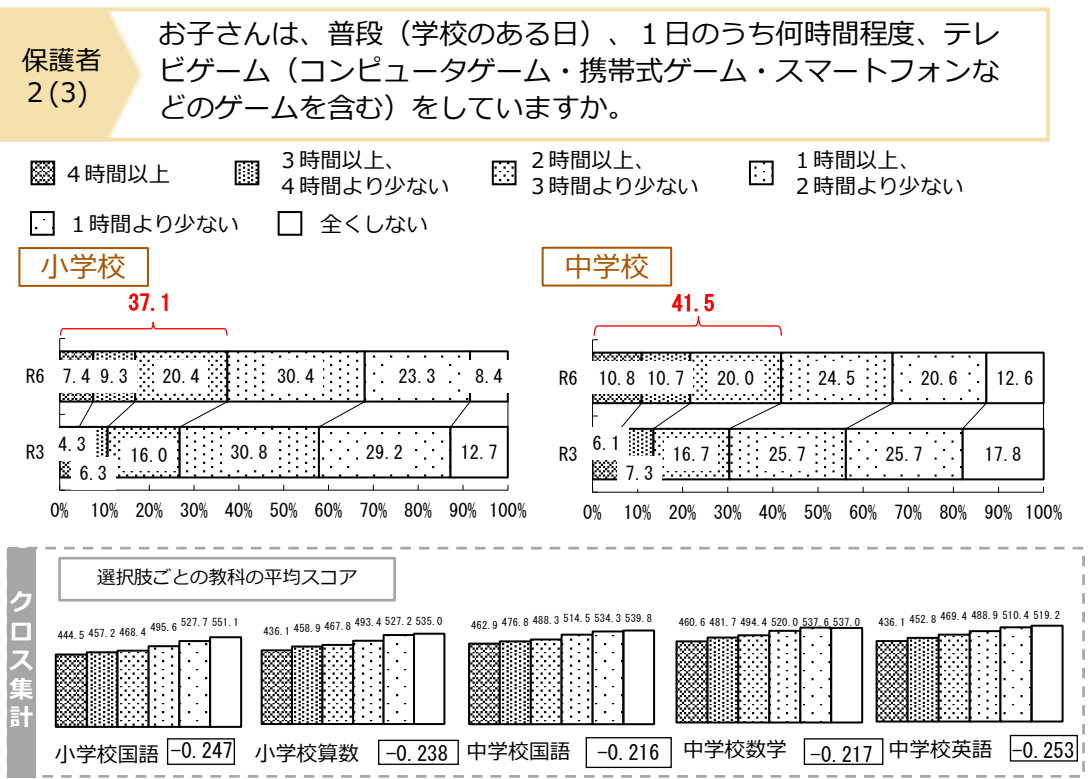
63.4



③ テレビゲーム*

④ 携帯電話・スマートフォン

※ □内の数字は相関係数



「テレビゲーム*」「SNSや動画視聴」と「ウェルビーイング」の関係（令和6年度本体調査より）

*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

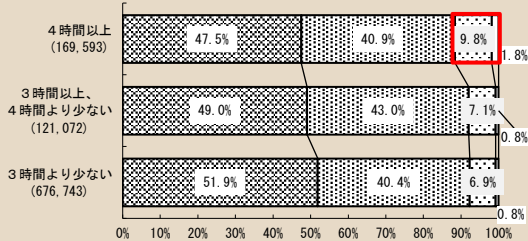
令和6年度本体調査の児童生徒質問調査によると、普段テレビゲームをする時間やSNSや動画視聴などをする時間が長い児童生徒の方が、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と考えていない割合が大きい状況が見られる。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

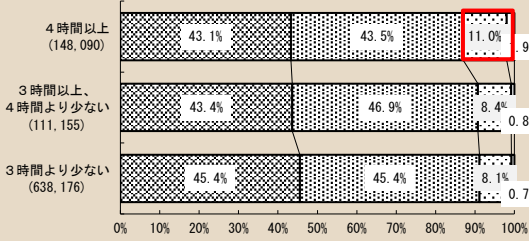
クロス集計

【テレビゲーム（子）】 × 【幸せになることがある（子）】

小学校



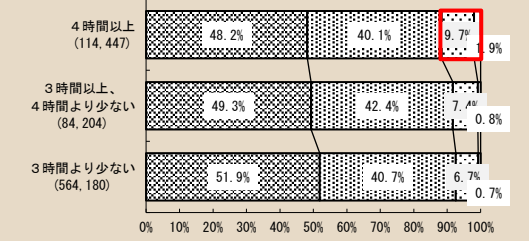
中学校



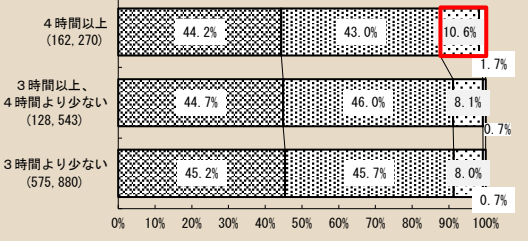
クロス集計

【SNS・動画視聴（子）】 × 【幸せになることがある（子）】

小学校



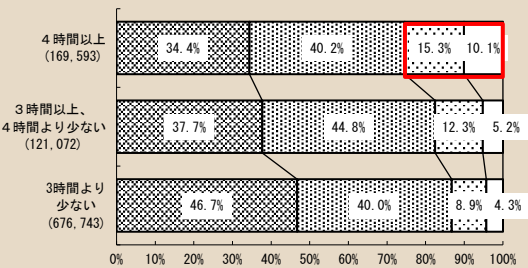
中学校



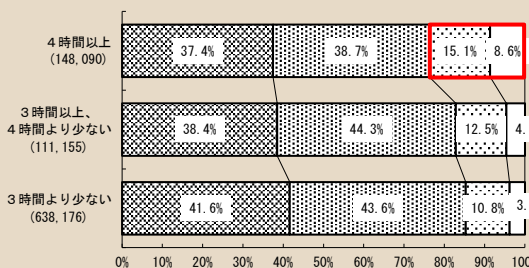
クロス集計

【テレビゲーム（子）】 × 【自分にはよいところがある（子）】

小学校



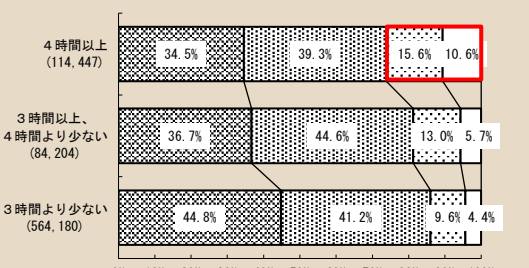
中学校



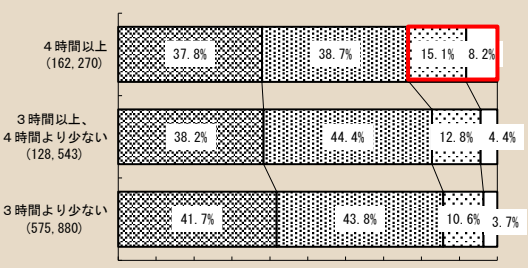
クロス集計

【SNS・動画視聴（子）】 × 【自分にはよいところがある（子）】

小学校



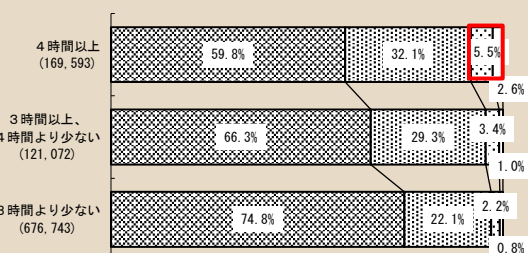
中学校



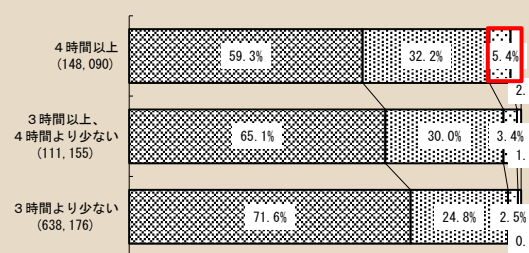
クロス集計

【テレビゲーム（子）】 × 【人の役に立つ人間になりたい（子）】

小学校



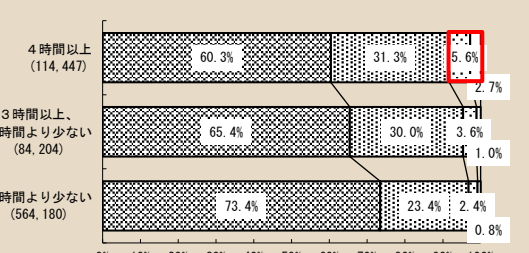
中学校



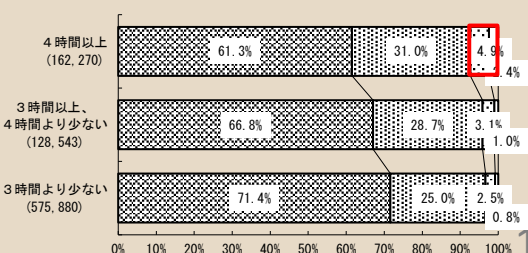
クロス集計

【SNS・動画視聴（子）】 × 【人の役に立つ人間になりたい（子）】

小学校



中学校



4. 保護者に対する調査の結果 (2) 学校外での過ごし方に影響を与えるもの

R6保護者

(注) 過去の保護者に対する調査結果と厳密に比較する際には、抽出対象となる母集団の違いや回収率等を考慮した分析が必要。

※ 内の数字は相関係数

① 「保護者の意識・働きかけ」と「学校外での過ごし方」

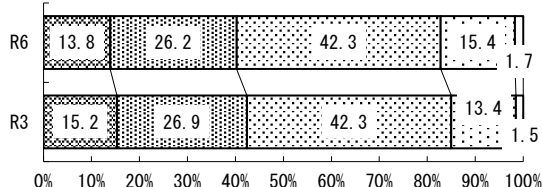
ポイント

- ・「計画的に勉強するよう子供に促している」「保護者が子供と学校の勉強のことについて話をしている」保護者（前回調査から割合減少）の子供の方が勉強時間が長い。「楽しければよい成績を取ることはこだわらない」と回答した保護者（前回調査から割合増加）の子供の方が勉強時間が短い。
- ・「ゲームの時間を限定している」「スマホルールを守るよう促す」保護者の子供の方が、ゲーム・スマホの時間が短い（特に小学生）。また、保護者のゲーム・スマホの時間が長いほど、子供のゲーム・スマホの時間が長く、勉強時間が短い。
- ・児童生徒の学校外での過ごし方が変わっている理由や背景は、この調査だけでは分からないことに留意が必要。

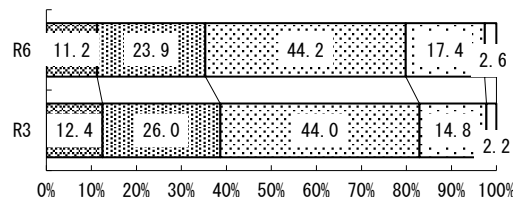
保護者 3(5)② 普段（学校のある日）、お子さんと学校の勉強のことについて話をしていますか。

いつもしている よくしている ときどきしている あまりしていない 全くしていない

小学校



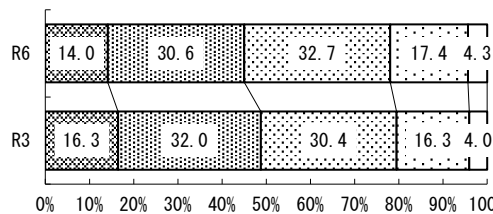
中学校



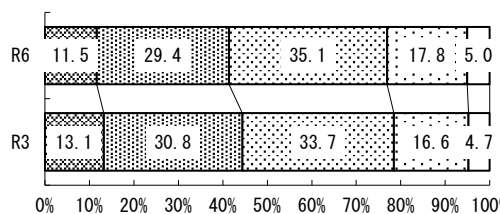
保護者 3(5)⑤ 計画的に勉強するようお子さんに促していますか。

いつもしている よくしている ときどきしている あまりしていない 全くしていない

小学校



中学校

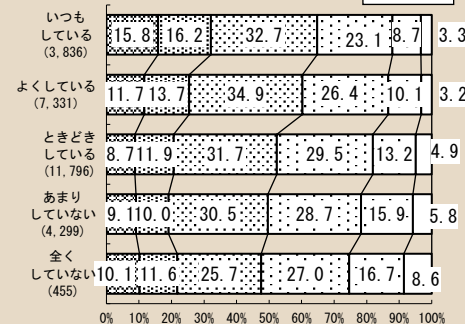


クロス集計

【勉強について話（保）】 × 【平日の勉強時間（子）】

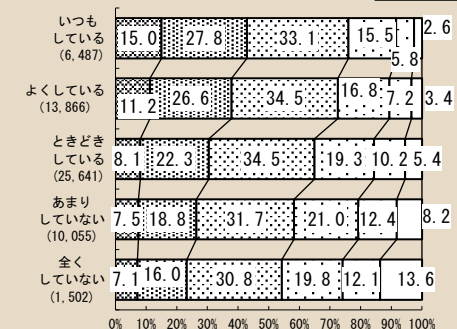
小学校

0.122



中学校

0.155

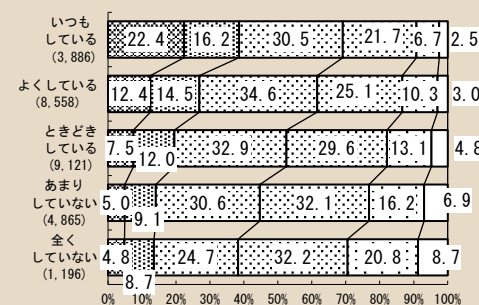


クロス集計

【計画的な勉強の促し（保）】 × 【平日の勉強時間（子）】

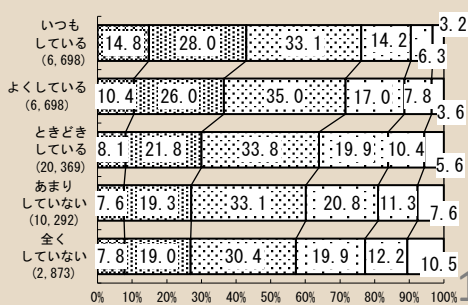
小学校

0.220

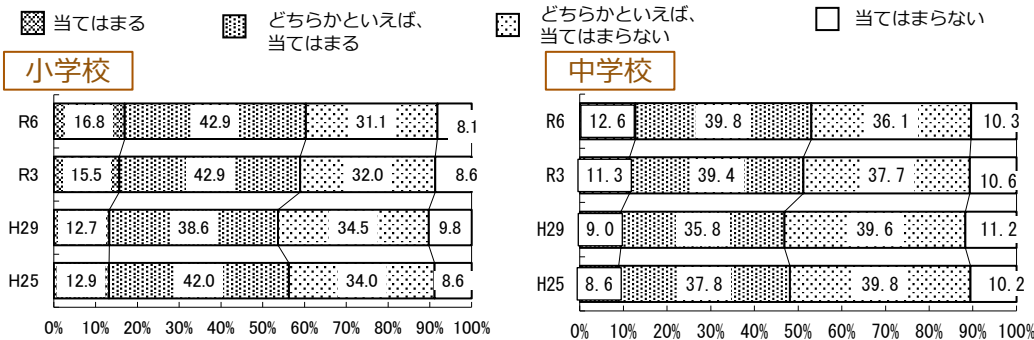


中学校

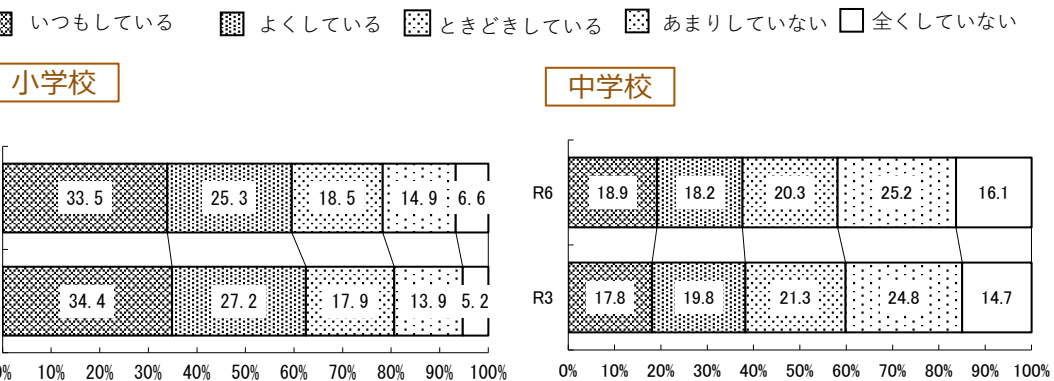
0.140



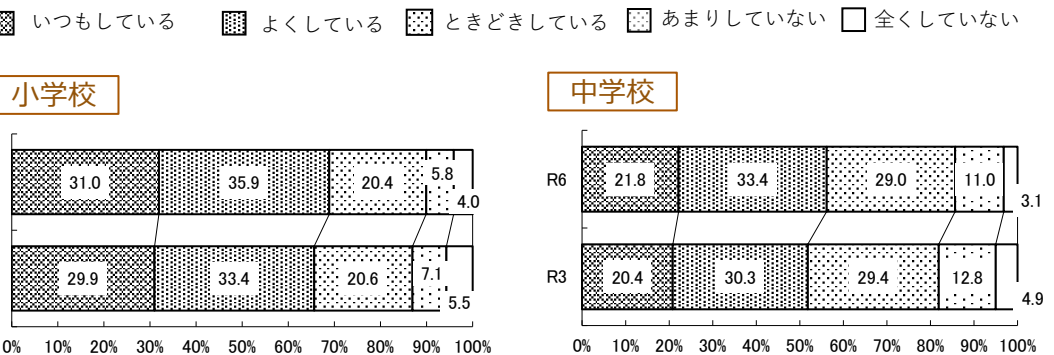
保護者 4(3)① 学校生活を楽しめれば、良い成績をとることはこだわらないと考えますか。



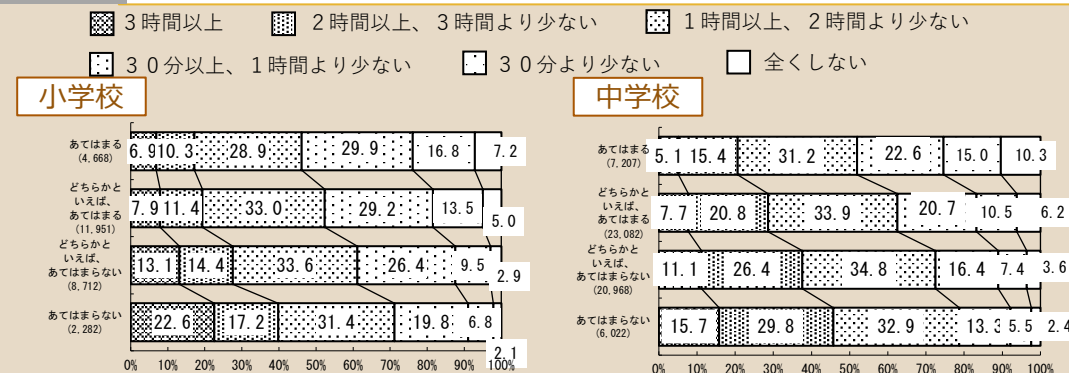
保護者 3(5)⑪ テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間を限定していますか。



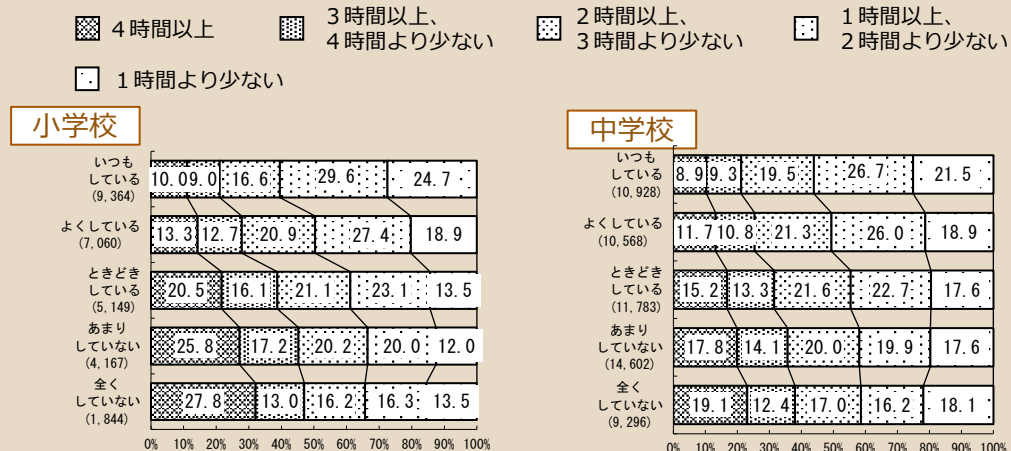
保護者 3(5)⑩ 携帯電話やスマートフォンの使い方についてルールや約束を守るように促していますか。



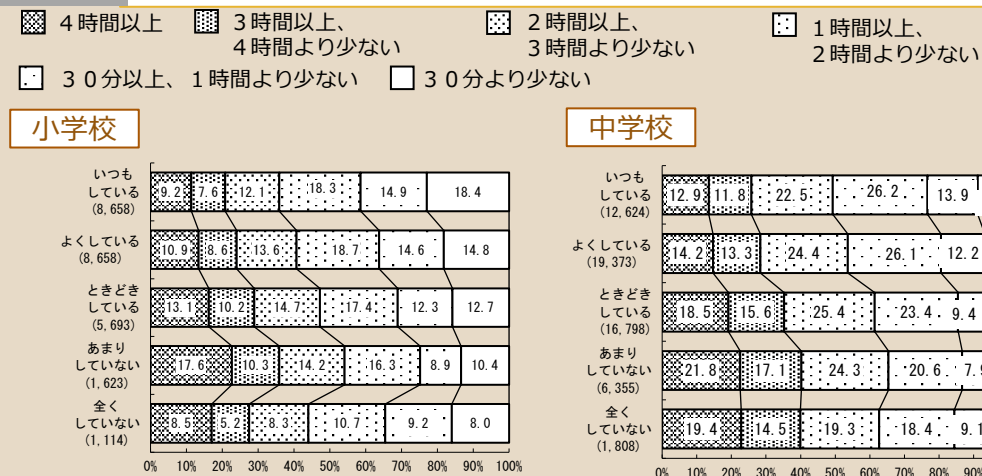
クロス集計 [良い成績にこだわらない（保）] × [平日の勉強時間（子）]



クロス集計 [ゲームの時間を限定（保）] × [テレビゲーム（子）]

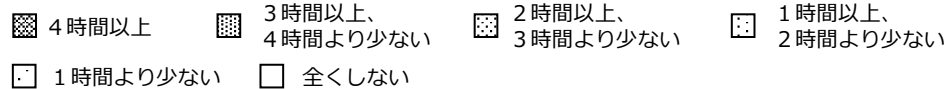


クロス集計 [スマホルールを守るよう促す（保）] × [SNS・動画視聴（子）]

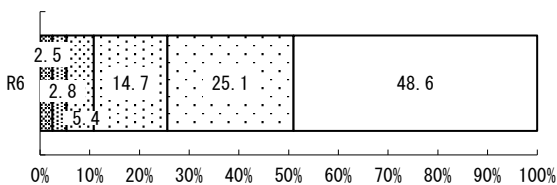


保護者
6(2)①

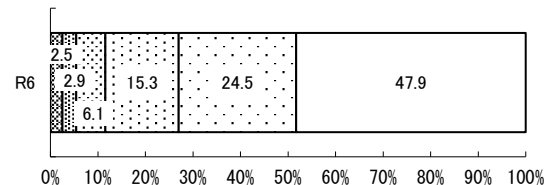
あなたは、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。



小学校

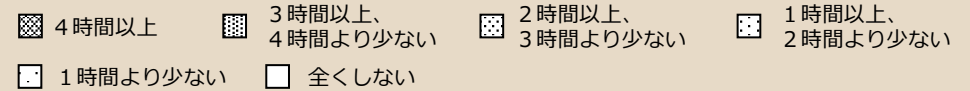


中学校

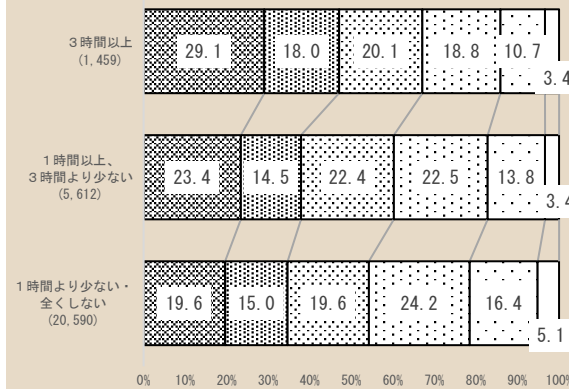


クロス
集計

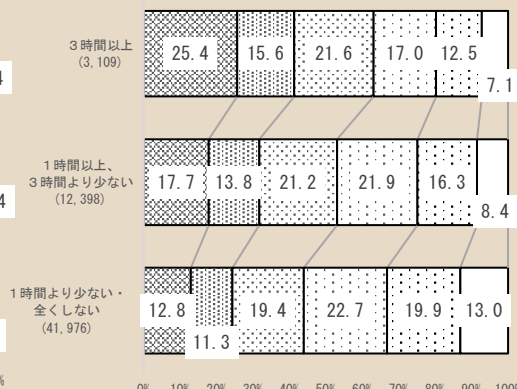
【テレビゲーム（保）】×【テレビゲーム（子）】



小学校

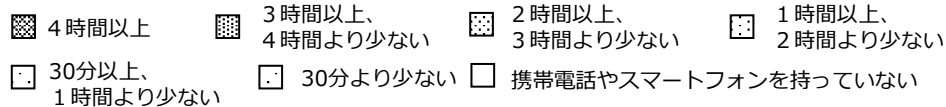


中学校

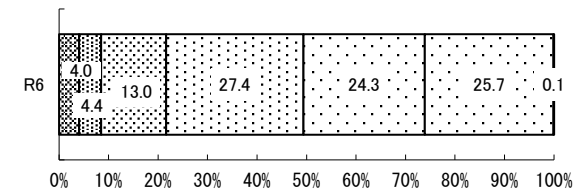


保護者
6(2)②

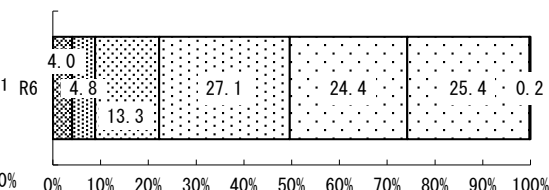
あなたは、1日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。



小学校

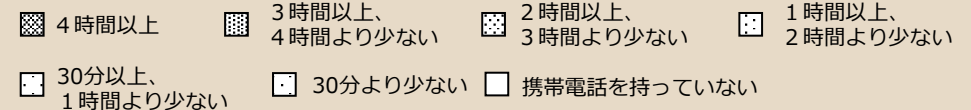


中学校

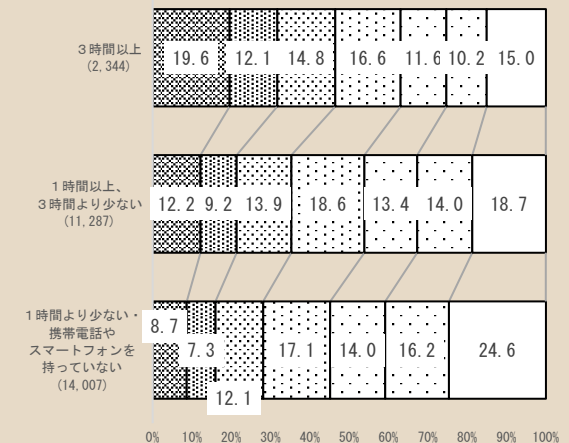


クロス
集計

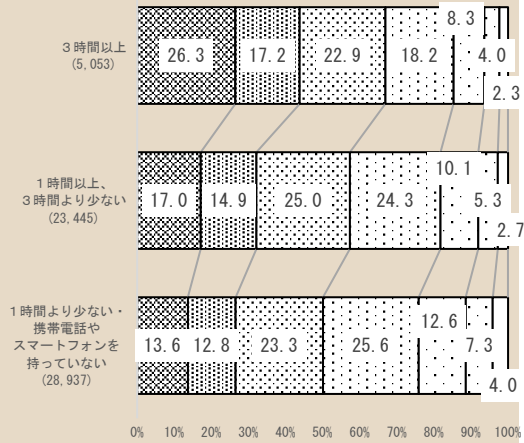
【SNS・動画視聴（保）】×【SNS・動画視聴（子）】



小学校



中学校



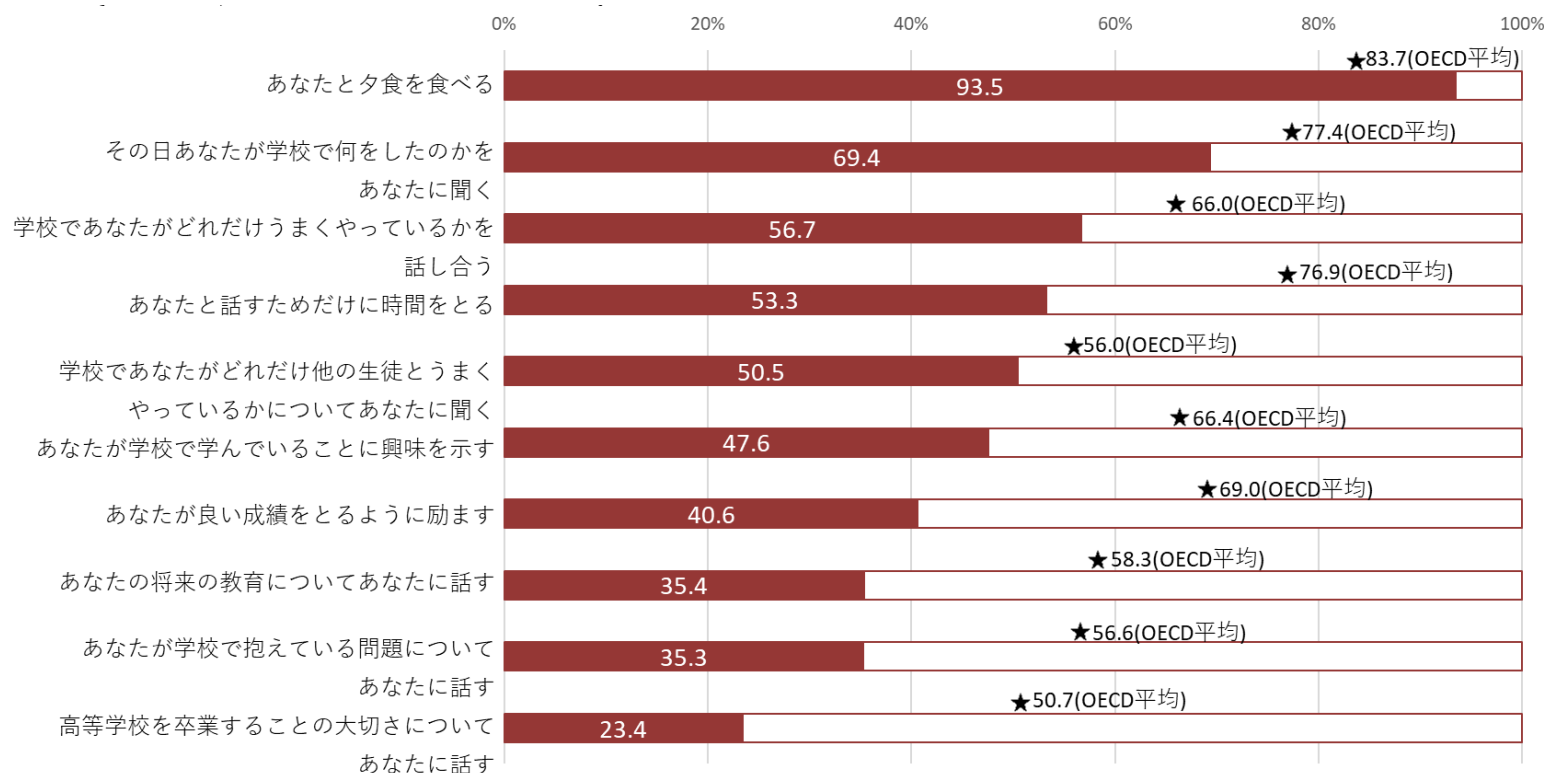
国際調査に見る「家族による支援的な関わり」

- ・ PISA2022生徒質問調査における「家族による支援的な関わり」の回答結果を国別に指標化したところ、PISA2022に参加したOECD加盟国の中で日本は最低評価となった。
- ・ 今回の保護者に対する調査の結果を見る際には、PISA2022のこのデータも合わせて捉える必要がある。

(i) 生徒質問調査 問48 家族による支援的な関わり（日本）

「あなたの親や家族は、あなたと次のことをどのくらいしますか。」

※「毎日又はほとんど毎日」「週に1～2回」と回答した生徒の割合



(ii) 生徒質問調査「家族による支援的な関わり」指標

(i) の10項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均	0.00
35位 日本	-0.54

※ OECD加盟国のうち、PISA2022のこの生徒質問調査に参加した35か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されている。

その値が大きいほど、生徒が家族による支援的な関わりがあると認識していることを意味している。

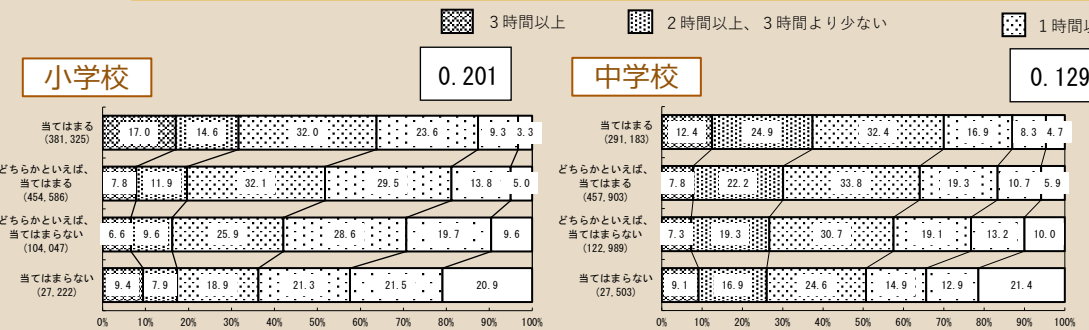
② 「学校の授業」と「学校外での過ごし方」（令和6年度本体調査の児童生徒質問調査より）

※ 内の数字は相関係数

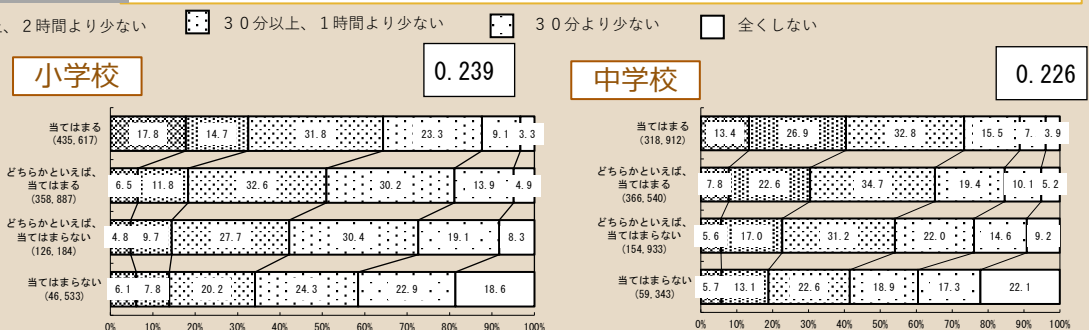
ポイント

- ・国語、算数・数学の授業が「よく分かる」児童生徒や主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、勉強時間が長く、テレビゲーム*やSNS・動画視聴の時間の使用時間が短い。
- *コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

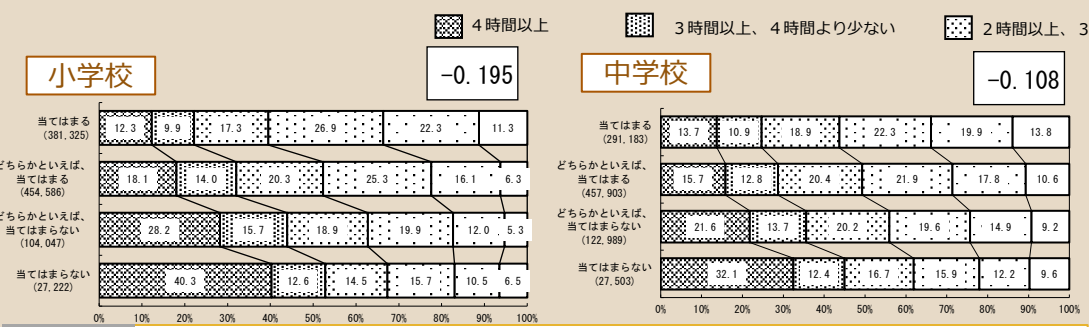
クロス集計 [国語の授業よく分かる(子)] × [平日の勉強時間(子)]



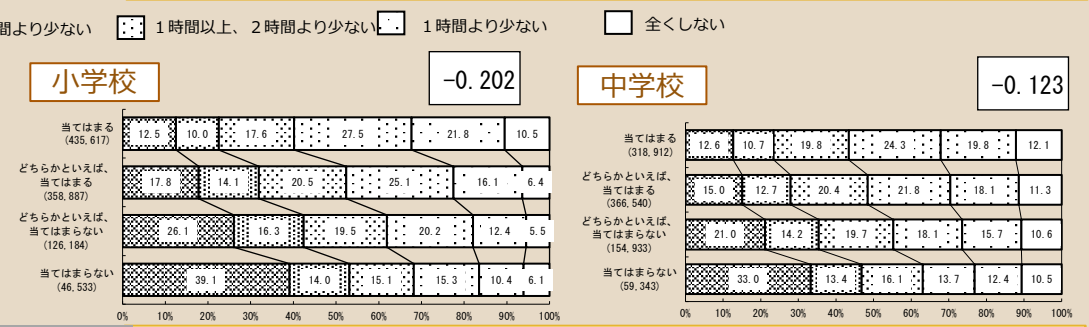
クロス集計 [算数・数学の授業よく分かる(子)] × [平日の勉強時間(子)]



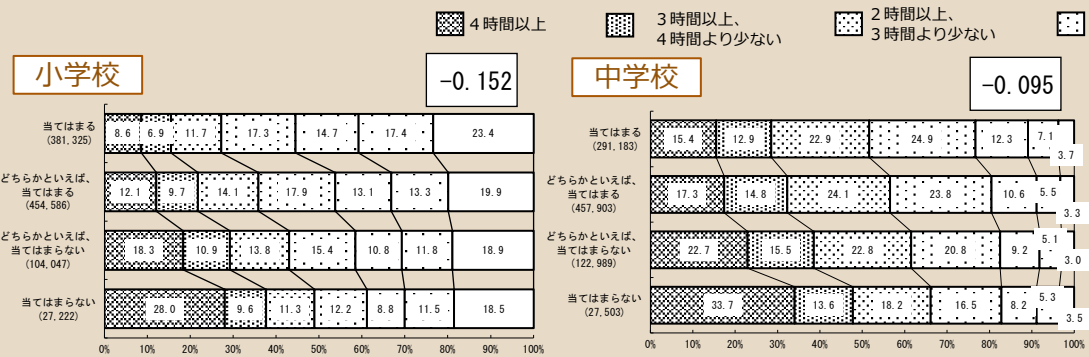
クロス集計 [国語の授業よく分かる(子)] × [テレビゲーム(子)]



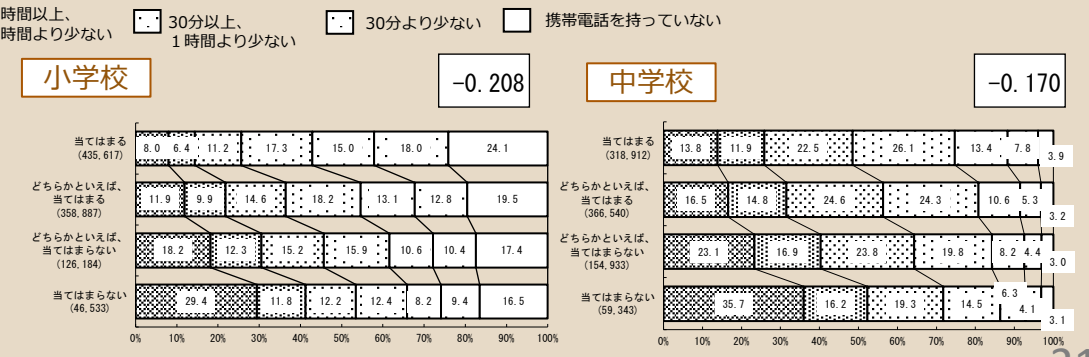
クロス集計 [算数・数学の授業よく分かる(子)] × [テレビゲーム(子)]



クロス集計 [国語の授業よく分かる(子)] × [SNS・動画視聴(子)]



クロス集計 [算数・数学の授業よく分かる(子)] × [SNS・動画視聴(子)]



※ 内の数字は相関係数クロス
集計【課題の解決に向けて自分から取り組んだ（子）】×
【平日の勉強時間（子）】

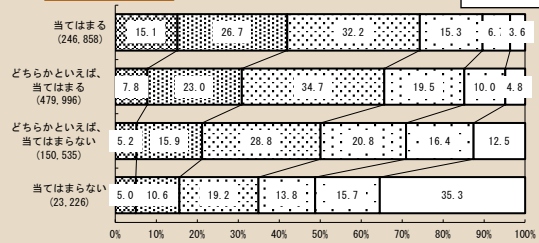
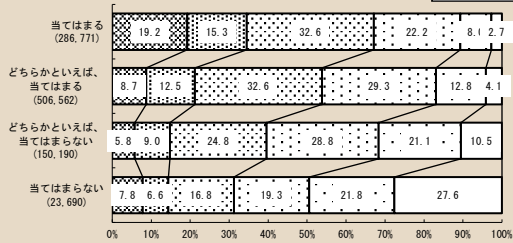
■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない □ 全くしない

小学校

0.249

中学校

0.240

クロス
集計【学んだことを生かしながら考えをまとめていた（子）】×
【平日の勉強時間（子）】

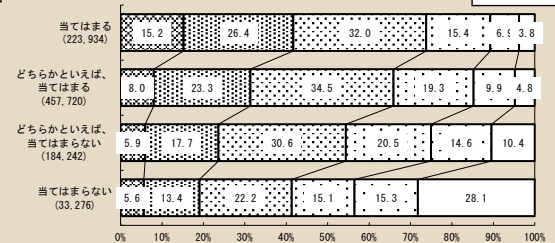
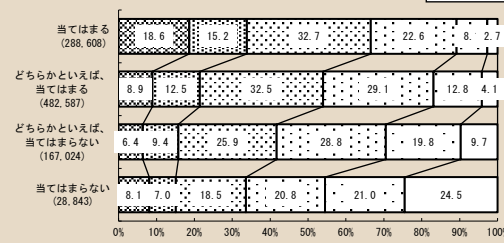
■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない □ 全くしない

小学校

0.234

中学校

0.213

クロス
集計【課題の解決に向けて自分から取り組んだ（子）】×
【テレビゲーム（子）】

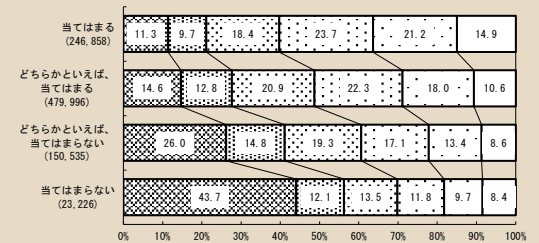
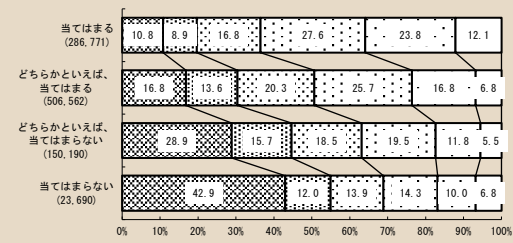
■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない □ 全くしない

小学校

-0.219

中学校

-0.177

クロス
集計【学んだことを生かしながら考えをまとめていた（子）】×
【テレビゲーム（子）】

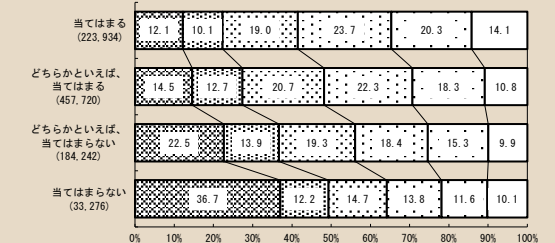
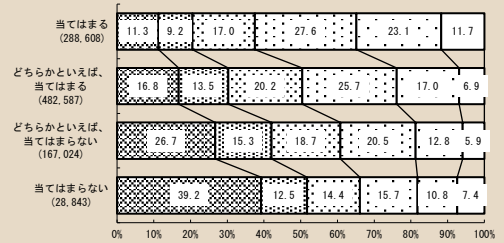
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない □ 全くしない

小学校

-0.196

中学校

-0.136

クロス
集計【課題の解決に向けて自分から取り組んだ（子）】×
【SNS・動画視聴（子）】

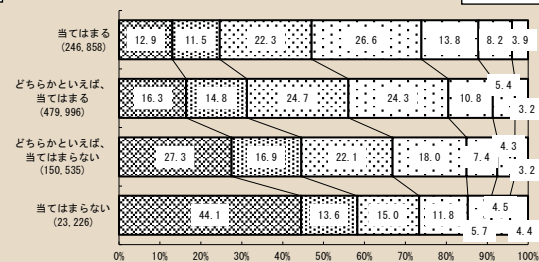
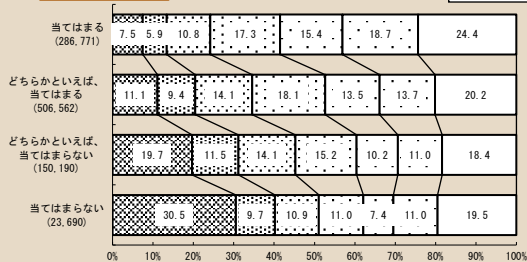
■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない □ 携帯電話を持っていない

小学校

-0.192

中学校

-0.178

クロス
集計【学んだことを生かしながら考えをまとめていた（子）】×
【SNS・動画視聴（子）】

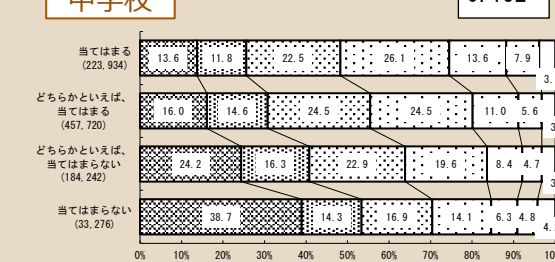
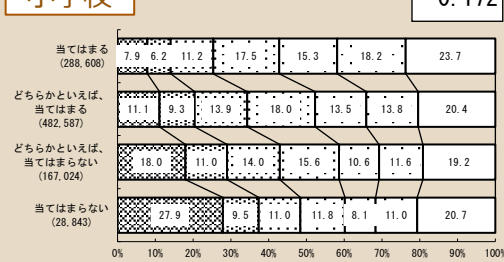
■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない □ 携帯電話を持っていない

小学校

-0.172

中学校

-0.152



「授業よく分かる」×「家で学校の勉強の話をする」×「勉強時間」

- 授業が「よく分かる」と回答している児童生徒の方が勉強時間が長く、テレビゲーム、SNS・動画等の時間が短い。ただし、授業がよく分かる場合も分からない場合も、家で保護者と勉強の話をする児童生徒の勉強時間が長い。
- 子供たちの学習習慣は、家庭と学校が一緒になって形成していけるものと言える。

[国語の授業の内容はよく分かりますか。]
児童生徒〔44〕]
[算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか。]
児童生徒〔52〕]

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない



[普段（学校のある日）、お子さんと学校の勉強のことについて話をしていますか。保護者〔3(5)②〕]

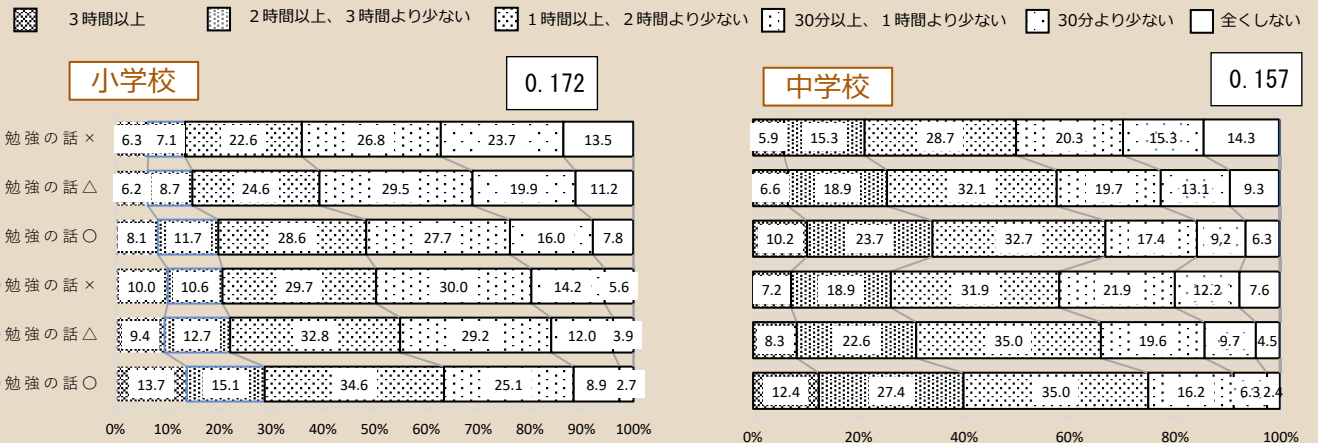
- いつもしている（又は）よくしている
- △ ときどきしている
- × あまりしていない（又は）全くしていない

グループ	人数（人）			
	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
分かる×勉強の話×	1,496	1,839	3,886	5,458
分かる×勉強の話△	3,234	4,360	8,073	11,554
分かる×勉強の話○	2,264	3,074	5,345	7,769
分かる○勉強の話×	7,513	7,173	17,230	15,654
分かる○勉強の話△	20,883	19,759	42,336	38,852
分かる○勉強の話○	19,580	18,765	34,666	32,250

クロス集計

【国語の授業よく分かる（子）】×【勉強の話（保）】×【平日の勉強時間（子）】

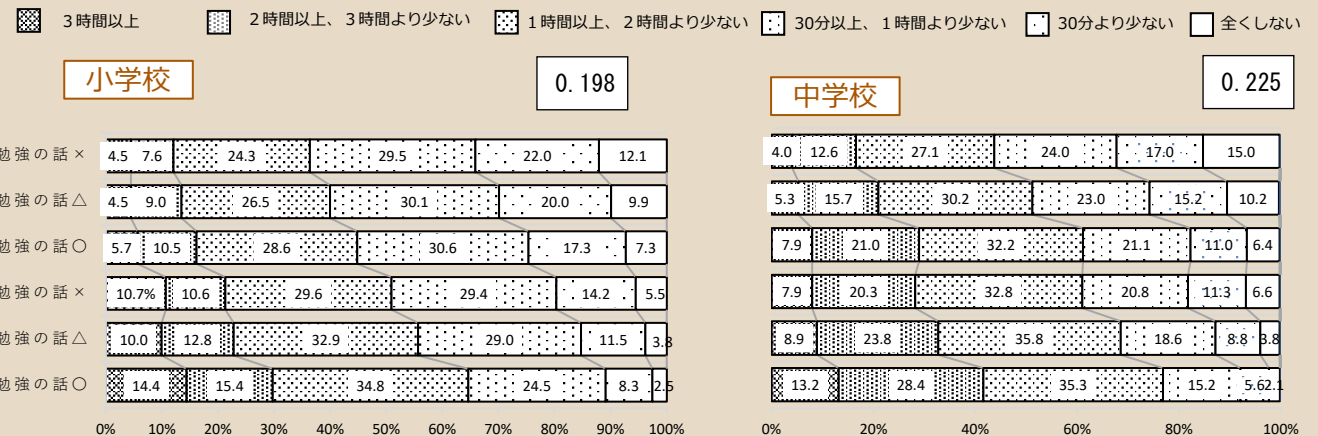
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔児童生徒21〕



クロス集計

【算数〔数学〕の授業よく分かる（子）】×【勉強の話（保）】×【平日の勉強時間（子）】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔児童生徒21〕



4. 保護者に対する調査の結果 (3) 子供の幸福感等

R6保護者

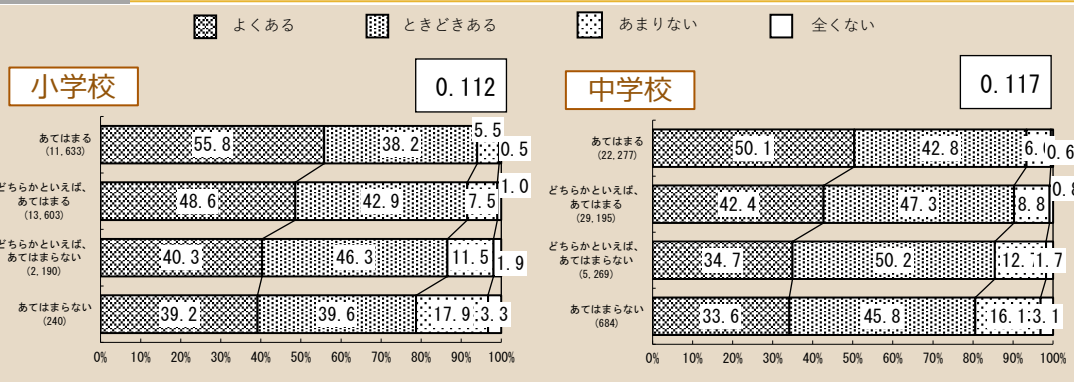
ポイント

- ・保護者の意識や働きかけと子供の幸福感等との間に、一定の関係が見られた。

※ ☐ 内の数字は相関係数

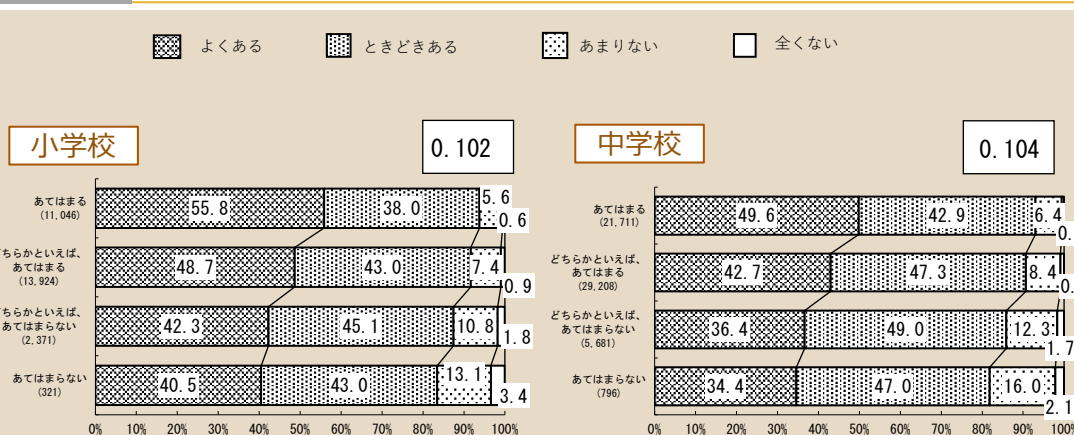
クロス集計

【子供との関係に満足（保）】×【幸せな気持ちになる（子）】



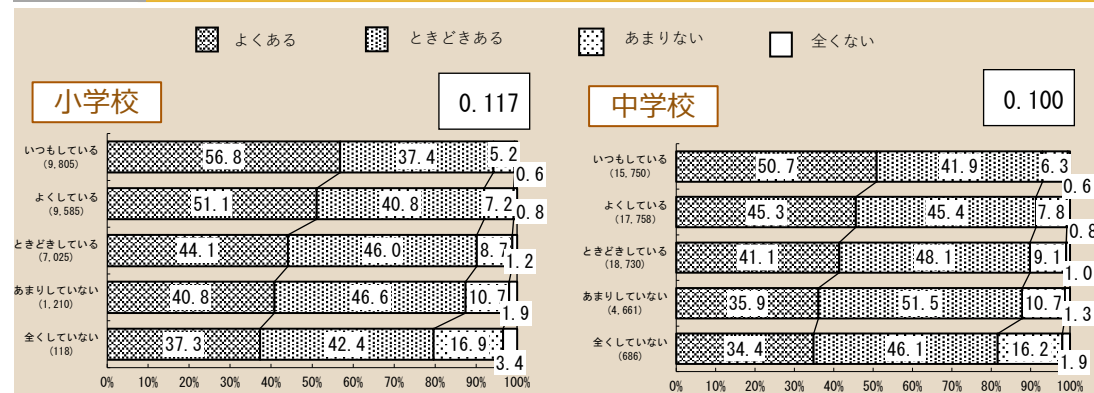
クロス集計

【子育ては楽しい（保）】×【幸せな気持ちになる（子）】



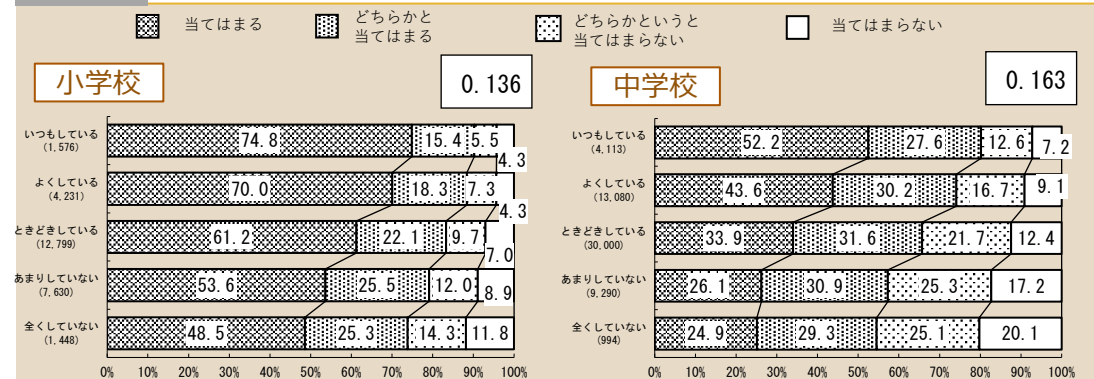
クロス集計

【学校での出来事を話す（保）】×【幸せな気持ちになる（子）】



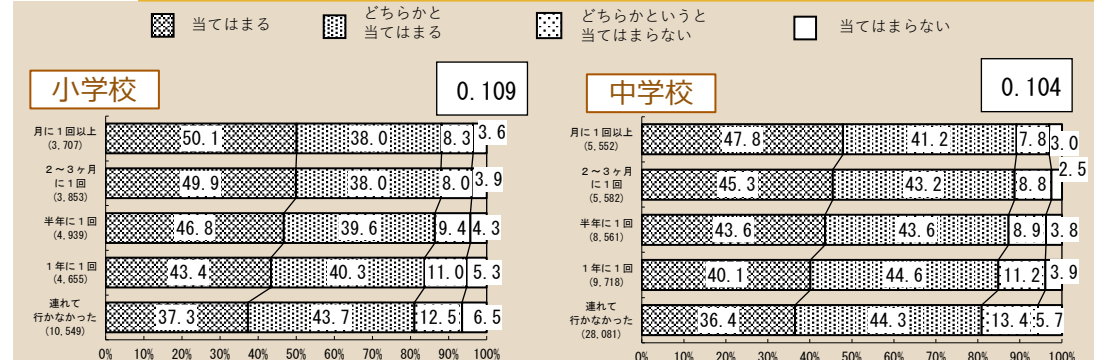
クロス集計

【将来や進路について話す（保）】×【夢や目標を持っている（子）】



クロス集計

【スポーツ観戦やスポーツ施設に子連れで行く（保）】×【自分にはよいところがある（子）】



1 調査結果を活用した追加分析等、次回調査の検討

○ 令和6年度経年変化分析調査・保護者調査の結果を活用した追加分析

- 今回の調査から明らかになった課題について、大学等の研究機関等の専門的な知見を活用して高度な分析を行う。分析内容は以下のとおり。

経年変化分析調査でのスコアの低下傾向について、児童生徒の状況、家庭の社会経済的背景（SES（Socio-Economic Status））を含む家庭の状況、学校の状況の変化等から要因を探る。また、広く社会変化の影響をとらえる手法について検討する。

○ 個票データの貸与

- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。

○ 次回令和9年度調査の設計の検討

- 令和9年度はCBT方式を基本として計画しているが、調査方式の違いによる解答への影響（モードエフェクト）等も踏まえて、令和6年度からの経年変化を適切に分析するための調査方式について更に検討する。
- モードエフェクトの分析等から得た知見を生かし、悉皆調査等の問題作成を進める。

2 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事を対象とした協議会を実施。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例の収集・分析を行い、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例の普及に取り組む。

○ 学習指導の充実

- 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
- 英語において、科学的知見に基づいた実践的なオンライン研修や、英語を学ぶ動機付けの強化等の観点から、AIを活用した英語教育の実証事業を実施。
- 小学生等に学校外での自身の興味・関心に沿った楽しく利用できる学習コンテンツについて周知（「たのしくまなび隊」など）

○ 次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討

- 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

3 児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立

○ 学習支援

- 小学生等に学校外での自身の興味・関心に沿った楽しく利用できる学習コンテンツについて周知（「たのしくまなび隊」など）【再掲】
- 教員OBや大学生などの地域住民の協力を得て行う、中学生・高校生等を対象とした放課後等の学習支援活動（地域未来塾）について補助を実施。

○ テレビゲームやスマートフォンの使用

- 文部科学省情報モラルポータルサイトにおいて、児童生徒向けの情報モラルに関する動画教材を提供するとともに、教職員等を対象としたオンライン研修会を開催。
- こども家庭庁をはじめとした関係省庁と連携し、青少年インターネット環境整備基本計画（第6次）に基づき、利用時間に関する「親子のルールづくり」の推奨など、青少年のインターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進。
- 児童生徒等の基本的な生活習慣（スマートフォンの使用を含む。）に関する調査研究を実施。

4 保護者の支援

○ 家庭教育の支援

- 地域の子育て経験者等により組織される「家庭教育支援チーム」の活動に対する支援を充実させることなどにより、保護者に寄り添う家庭教育支援の推進を図る。

○ 保護者からの相談対応や支援機関への働き掛け

- 様々な課題を抱える児童生徒のニーズを把握し、支援を展開するとともに、保護者からの相談対応や支援機関への働き掛けなどを行うスクールソーシャルワーカーの配置拡充。

○ 調査結果に関する周知・広報

- こども家庭庁と連携して、今回の経年変化分析調査・保護者に対する調査から明らかになった知見を、保護者や地域で子育て支援に関わる者に対して周知。

5 教師を取り巻く環境整備

○ きめ細かな指導体制の整備

- 中学校35人学級化（令和8年度から）や、小学校高学年及び中学年で教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困など個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。

○ 子供と向き合う時間の確保

- 教師が教師でなければできない仕事に集中できるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。